

2023年度

授業計画書

Syllabus



埼玉東萌美容専門学校

目 次

1年次(2023年度入学者用)

【必修課目】

関係法規・制度	1
衛生管理	3
保健	7
香粧品化学	11
文化論	13
技術理論	15
美容実習（1年前期）＊	19
美容実習（1年後期）＊	25

【選択課目】

人文科学	31
美容サロンワーク＊	35
美容ケア（メイク）＊	39
美容ケア（ネイル）＊	41
創作美容＊	43
美容モード理論＊	45

2年次(2022年度入学者用)

【必修課目】

衛生管理	49
保健	51
香粧品化学	53
文化論	55
技術理論	57
運営管理	61
美容実習（2年前期）＊	63
美容実習（2年後期）＊	69

【選択課目】

美容サロンワーク＊	75
美容ケア（メイク）＊	79
創作美容＊	81
美容モード理論＊	83
美容総合技術＊	87

1 年 生

(2023年度入学生用)

【必修科目】

埼玉東萌美容専門学校

授業科目 関係法規・制度

開講年次	1年前期	時間/単位	30時間/1単位	必選	必修	授業形態	講義
資格対応	美容師国家試験受験資格						
担当者	嶋田律子						

【授業の概要】

法制度の概要を理解したうえで、わが国の衛生行政のしくみ、美容師法・施行令・施行規則について理解を深めるとともに、美容業に関係する法律・制度について学習する。

【教育目標】

美容師の資格は法律により規定され、美容師に必要な法知識を習得する必要がある。
関係法規では、法制度の概要からわが国の衛生行政について学ぶとともに、美容師法の要求する美容師・美容所についての規定を理解する。また、美容師について必要とされる関連の法規についても知識を深めることとする。

【授業方法】

- ・教材及び各種資料(レジュメ)を用いて、原則として議述(講義)の形式で行う。
- ・学期末試験とは別に学期中に小テストを行うことがありうる。
- ・毎授業後に使用しているノートの提出を求めることがある。

【アクティブ・ラーニングの要素】

グループワーク	プレゼンテーション	ディスカッション ディベート	実習
—	—	—	—

【授業計画】

回	項目	内容	担当者名
1～2	法制度の概要	法の役割・法とは何か・法の実際	嶋田
3～4	衛生法規の概要	衛生法規の意義・分類・概観	嶋田
5～6	衛生行政の概要	国と地方の行政・衛生行政の意義と歴史・衛生行政の動向	嶋田
7～8	衛生行政の種類と行政機関	衛生行政のしくみ・保健所の役割と機構	嶋田
9～10	美容師法	美容師法の目的と歴史・美容師法の構成	嶋田
11～12	用語の定義	美容・美容師・美容所	嶋田
13～14	美容師	美容師養成制度・美容師試験・免許と登録	嶋田
15～16	美容師	管理美容師・業務に従事する美容師の義務	嶋田
17～18	美容所	美容所の開設	嶋田
19～20	美容所	美容所開設者が講ずべき衛生措置・美容所以外での業務	嶋田
21～22	立入検査	立入検査・環境衛生監視員	嶋田
23～24	行政処分	行政処分・行政処分手続き・審査請求・異議申立て	嶋田
25～26	罰則・関係法規	罰則・生衛法・地域保健法	嶋田
27～28	関係法規・まとめ	感染症法・労働基準法・消費者基本法・美容師法の課題	嶋田

回	項目	内容	担当者名
29～30	まとめ・筆記試験	総まとめ 筆記試験	嶋田

【到達目標】

法制度、衛生行政、美容師法、関係法規を理解することにより、美容師が持つ社会的責任の重さを理解し、顧客に対し責任を持って業を行うという職業意識を育成していく。

【時間外学習(予習・復習・準備学習等)】

1回の授業後に復習として60分程度が望ましい。

【課題に対するフィードバックの方法】

提出されたノート、プリント類は定期試験、美容師国家試験受験時に活かせるように内容確認後返却してフィードバックを行う。

【成績評価の方法・基準】

方法

1. 定期試験
2. 授業の出欠状況
3. 授業受講の態度
4. 提出物

基準

1. 定期試験については評価判定基準に準ずる。
2. 授業の出欠状況については所定授業時数の2/3以上を出席とする。
3. 授業受講の態度については評価判定基準に基づき担当教員が評価を行う。
4. 提出物は期限内に提出していること。

評価判定基準

評価(点)	100～80	79～70	69～60	59以下
評価	A	B	C	D

*評価はC以上を合格とする。

【テキスト】

書名	著者名	出版社
関係法規・制度		日本理容美容教育センター
美容師法関係法令集		日本理容美容教育センター

【参考文献】

書名	著者名	出版社
必要に応じて資料を配付する。		

【備考】

授業への出欠状況および授業中に授業に対する受講態度を重視する。

【必修科目】

埼玉東萌美容専門学校

授業科目 衛生管理

開講年次	1年前後期	時間/単位	60時間/2単位	必選	必修	授業形態	講義
資格対応	美容師国家試験受験資格						
担当者	大場利良						

【授業の概要】

公衆衛生の歴史・環境衛生の現状を学習理解し将来の方向性を考察する。美容の業務内容と感染症予防を理解し、衛生管理技術での物理的方法(熱・紫外線)、化学的方法(種々の消毒薬)の基本的な消毒技術を習得する。

【教育目標】

美と健康に関わる職業人として、人々の健康づくりに寄与出来る知識を学び(特に美容師と公衆衛生の関係を学ぶ)、健康への理解を深める。

人の生活環境には、無数の微生物が生息している。これらの微生物すべてが感染症の原因となるわけではないが、環境状態によっては重い感染症の発病に結びつくことがある。多数の顧客を施術する美容師はいかなる場合においても感染症を媒介させることがあってはならない。よってこれらの微生物を取り除く方法を理論と実践にて総合的に理解させる。

【授業方法】

- ・教材及び各種資料(レジュメ)を用いて、原則として議述(講義)の形式で行う。
- ・消毒技術では器具・用具他の消毒の実践を行う。
- ・学期末試験とは別に学期中に小テストを行うことがありうる。
- ・授業中に使用しているノートの提出を求めることがある。

【アクティブ・ラーニングの要素】

グループワーク	プレゼンテーション	ディスカッション ディベート	実習
○	—	—	—

【授業計画】

回	項目	内容	担当者名
1～2	公衆衛生の意義と課題	公衆衛生とは何かを考える	大場
3～4	公衆衛生の発展の歴史	欧米と日本の公衆衛生の歩み・消毒法の歴史	大場
5～6	美容師と公衆衛生	公衆衛生とは美容師の関わり	大場
7～8	保健所と美容業	保健所の機能と事業	大場
9～10	保健	母子保健・成人・高齢者の保健・精神保健	大場
11～12	環境衛生の概要	環境衛生の目的と意義・環境衛生活動	大場
13～14	空気環境	空気と健康・温度、湿度、気流と健康	大場
15～16	衣服・住居の衛生	衣服・住居の衛生	大場
17～18	上・下水道と廃棄物	上・下水道と廃棄物	大場
19～20	衛生害虫とネズミ・環境保全	衛生害虫・ネズミ・水質汚濁	大場
21～22	人と感染症	感染症発見の歴史、感染症と法律	大場
23～24	人と感染症	感染症の分類	大場
25～26	病原微生物	微生物の種類・構造、形と大きさ	大場

回	項目	内容	担当者名
27～28	病原微生物・感染症の予防	微生物の増殖と環境の影響、微生物の病原性、	大場
29～30	まとめ・筆記試験	これまでのまとめ 筆記試験	大場
31～32	感染症の予防	人の感受性、免疫と予防接種、感染症発生の要因と予防	大場
33～34	主な感染症	空気・飛沫を介して感染する感染症	大場
35～36	主な感染症	飲食物を介して感染する感染症	大場
37～38	主な感染症	血液等を介して感染する感染症 動物・節足動物を介して感染する感染症	大場
39～40	具体的な対策の例	標準予防策、疾患を持つ客への対応法	大場
41～42	消毒の意義	汚染、感染、発病の意義 殺菌、消毒、滅菌、防腐の定義	大場
43～44	美容の業務と消毒の関係	消毒を怠った場合の危険性と美容師の責任	大場
45～46	消毒法と適用上の注意	消毒法の種類、消毒に必要な条件	大場
47～48	理学的消毒法(殺菌法)	紫外線、煮沸、蒸気、その他による消毒	大場
49～50	化学的消毒法(殺菌法)	アルコール類、塩素剤、界面活性剤による消毒	大場
51～52	化学的消毒法(殺菌法)	グルコン酸クロロヘキシジン、その他の消毒薬	大場
53～54	すぐれた消毒法と実践の注意	消毒を行う際の注意事項	大場
55～56	消毒法実習	各種消毒薬の概要、消毒薬希釈法	大場
57～58	消毒法実習	美容所の消毒の実際・美容所における衛生管理要領	大場
59～60	まとめ・筆記試験	総まとめ 筆記試験	大場

【到達目標】

美と健康に関わる職業人としてより安全・適切な感染症予防方法を自ら選択することができるようになり、かつ美容業を行うために不可欠な衛生管理技術についての能力を養い美容師が持つ社会的責任を持って業を行う職業意識を育成する。

【時間外学習(予習・復習・準備学習等)】

1回の授業後に復習として60～90分程度が望ましい。

【課題に対するフィードバックの方法】

提出されたノート、プリント類は定期試験、美容師国家試験受験時に活かせるように内容確認後返却してフィードバックを行う。

【成績評価の方法・基準】

方法

1. 定期試験
2. 授業の出欠状況
3. 授業受講の態度
4. 提出物

基準

1. 定期試験については評価判定基準に準ずる。
2. 授業の出欠状況については所定授業時数の2/3以上を出席とする。
3. 授業受講の態度については評価判定基準に基づき担当教員が評価を行う。
4. 提出物は期限内に提出していること。

評価判定基準

評価(点)	100～80	79～70	69～60	59以下
評定	A	B	C	D

*評定はC以上を合格とする。

【テキスト】

書名	著者名	出版社
衛生管理		日本理容美容教育センター
ワークブック		日本理容美容教育センター

【参考文献】

書名	著者名	出版社

【備考】

授業への出欠状況および授業中に授業に対する受講態度を重視する。

【必修科目】

埼玉東萌美容専門学校

授業科目 保健

開講年次	1年前後期	時間/単位	60時間/2単位	必修	必修	授業形態	講義
資格対応	美容師国家試験受験資格						
担当者	吉井さとみ						

【授業の概要】

教科書に沿い、日常的な話題や自身の身体と比較しながら、具体的なイメージに導き理解を深めていく。

【教育目標】

美容師は頭や顔を中心とする人間の美と健康に携わる保健衛生分野の職業上の特徴から、一般の人以上に「人体の構造及び機能」や皮膚や毛髪に関する「皮膚科学」についての知識が求められる。そのための基礎を学ぶ。

【授業方法】

- ・教材及び各種資料(レジュメ)を用いて、原則として議述(講義)の形式で行う。
- ・学期末試験とは別に学期中に小テストを行うことがありうる。
- ・授業中に使用しているノートの提出を求めることがある。

【アクティブ・ラーニングの要素】

グループワーク	プレゼンテーション	ディスカッション ディベート	実習
—	—	—	—

【授業計画】

回	項目	内容	担当者名
1～2	頭部、顔部 頸部の体表解剖学	人体各部の名称	吉井
3～4	頭部、顔部 頸部の体表解剖学	頭部、顔部、頸部の体表解剖学	吉井
5～6	骨格器系	骨の種類と構造・骨の連結	吉井
7～8	骨格器系	骨格器系とそのはたらき	吉井
9～10	筋系	筋の種類とその特徴・主な骨格筋とそのはたらき	吉井
11～12	筋系	表情筋と表情運動・理容・美容の作業と筋疲労	吉井
13～14	神経系	神経の成り立ち・中枢神経とそのはたらき	吉井
15～16	神経系	末梢神経とそのはたらき	吉井
17～18	感覚器系	視覚・聴覚・平衡感覚	吉井
19～20	感覚器系	味覚・嗅覚・皮膚感覚	吉井
21～22	血液・循環器系	血液のあらまし・血液循環の仕組み	吉井
23～24	血液・循環器系	血液の循環経路・リンパ管系の仕組みとはたらき 心臓と血管のはたらき	吉井
25～26	呼吸器系	呼吸器系のあらまし・気道	吉井
27～28	呼吸器系・消化器系	肺の仕組みとガス交換・呼吸運動 消化器系のあらまし	吉井
29～30	まとめ・筆記試験	これまでのまとめ 筆記試験	吉井

回	項目	内容	担当者名
31～32	消化器系	消化管の仕組み	吉井
33～34	皮膚の構造	皮膚の表面・皮膚の断面・表皮・表皮と真皮の境	吉井
35～36	皮膚の構造	真皮・皮下組織・皮膚の部位差	吉井
37～38	皮膚付属器官の構造	毛・脂腺(皮脂腺)・爪・汗腺	吉井
39～40	皮膚の循環器系と神経系	皮膚の血管・皮膚のリンパ管	吉井
41～42	皮膚の循環器系と神経系	皮膚の神経	吉井
43～44	皮膚と皮膚付属器官の生理機能	対外保護作用・体温調整作用 知覚作用と皮膚反射・分泌排泄作用	吉井
45～46	皮膚と皮膚付属器官の生理機能	呼吸作用・貯蔵作用・免疫・解毒・排除作用 再生作用・毛のはたらき・爪のはたらき	吉井
47～48	皮膚と皮膚付属器官の保健	皮膚と全身状態・皮膚と精神・皮膚と栄養 皮膚とし好品・皮膚と体内病変・皮膚の水分と脂の状態	吉井
49～50	皮膚と皮膚付属器官の保健	皮と付属器官とホルモン・皮膚の保護と手入れ・毛の保護と手入れ・ 爪の保護と手入れ・子どものおしやれによる皮膚トラブル	吉井
51～52	皮膚と皮膚付属器官の疾患	皮膚の異常とその種類・皮膚疾患の原因 皮膚疾患の治療法・皮膚炎と湿疹・蕁麻疹・薬疹	吉井
53～54	皮膚と皮膚付属器官の疾患	口唇の疾患・温熱・寒冷による皮膚障害・角質異常による皮膚障害・ 色素異常による皮膚障害・血管腫・脂腺母斑・下肢静脈瘤・分泌異常 による皮膚疾患	吉井
55～56	皮膚と皮膚付属器官の疾患	化膿菌による皮膚疾患・ウイルスによる皮膚疾患・ウイルスによる皮 膚疾患・真菌による皮膚疾患・衛生害虫による皮膚疾患	吉井
57～58	皮膚と皮膚付属器官の疾患	感染症の皮膚疾患の予防・毛と爪の疾患 皮膚の腫瘍	吉井
59～60	まとめ・筆記試験	総まとめ 筆記試験	吉井

【到達目標】

美容師に必要な「人体の構造及び機能」や「皮膚科学」について理解でき、基礎として身につける。

【時間外学習(予習・復習・準備学習等)】

1回の授業後に復習として60～90分程度が望ましい。

【課題に対するフィードバックの方法】

提出されたノート、プリント類は定期試験、美容師国家試験受験時に活かせるように内容確認後返却してフィードバックを行う。

【成績評価の方法・基準】

方法

1. 定期試験
2. 授業の出欠状況
3. 授業受講の態度
4. 提出物

基準

1. 定期試験については評価判定基準に準ずる。
2. 授業の出欠状況については所定授業時数の2/3以上を出席とする。
3. 授業受講の態度については評価判定基準に基づき担当教員が評価を行う。
4. 提出物は期限内に提出していること。

評価判定基準

評価(点)	100～80	79～70	69～60	59以下
評定	A	B	C	D

*評定はC以上を合格とする。

【テキスト】

書名	著者名	出版社
保健		日本理容美容教育センター
ワークブック		日本理容美容教育センター
授業中に適宜演習問題を配付する。		

【参考文献】

書名	著者名	出版社
保健体育編・体育編		文部科学省

【備考】

授業への出欠状況および授業中に授業に対する受講態度を重視する。

【必修科目】

埼玉東萌美容専門学校

授業科目 香粧品化学

開講年次	1年後期	時間/単位	30時間/1単位	必修	必修	授業形態	講義
資格対応	美容師国家試験受験資格						
担当者	大場利良						

【授業の概要】

香粧品概論、香粧品原料の項目にて解説する。美容師として業務上使用する香粧品に表示されている配合成分の化学的性質や配合目的などについて学ぶ。

【教育目標】

香粧品に用いられている原料の化学的性質や配合目的などについて学び、各種香粧品の有用性、安全性および使用目的について理解を深める。

【授業方法】

- ・教材及び各種資料(レジュメ)を用いて、原則として議述(講義)の形式で行う。
- ・学期末試験とは別に学期中に小テストを行うことがある。
- ・授業中に使用しているノートの提出を求めることがある。

【アクティブ・ラーニングの要素】

グループワーク	プレゼンテーション	ディスカッション ディベート	実習
—	—	—	—

【授業計画】

回	項目	内容	担当者名
1～2	香粧品の社会的意義と品質特性	香粧品の社会的意義・品質と必要条件	大場
3～4	香粧品の規制	香粧品の定義・製造販売の規制・品質・表示広告の規制	大場
5～6	香粧品の安定性と取扱いの注意	香粧品の安定性・経時変化・使用上取扱いの注意	大場
7～8	香粧品と安全性	香粧品及び表示成分と安全性・トラブル	大場
9～10	香粧品の対象となる人体各部の性状	皮膚と水・頭皮毛髪・健康な状態・爪、まぶた、唇の性状	大場
11～12	水性原料・油性原料	水・エタノール・油脂・ロウ類・炭化水素・その他の油性原料	大場
13～14	界面活性剤	界面活性剤の基本的性質	大場
15～16	界面活性剤	界面活性剤の種類	大場
17～18	界面活性剤	界面活性剤の香粧品への応用	大場
19～20	高分子化合物	高分子化合物の種類と特性、香粧品への応用	大場
21～22	色材	無機顔料・有機顔料・光輝性顔料・天然色素	大場
23～24	香料	香料の種類・調合香料	大場
25～26	その他の配合成分	品質保持に使用される配合成分・配合成分が果たす機能	大場
27～28	ネイル、まつ毛エクステンション用材料	合成樹脂・接着剤・塗料	大場
29～30	まとめ・筆記試験	これまでのまとめ 筆記試験	大場

【到達目標】

美容師として化粧品に関するアドバイスが出来るよう、化粧品の有用性、安全性および使用目的に対する十分な知識を習得する。

【時間外学習(予習・復習・準備学習等)】

1回の授業後に復習として60～90分程度が望ましい。

【課題に対するフィードバックの方法】

提出されたノート、プリント類は定期試験、美容師国家試験受験時に活かせるように後日返却してフィードバックを行う。

【成績評価の方法・基準】

方法

1. 定期試験
2. 授業の出欠状況
3. 授業受講の態度
4. 提出物

基準

1. 定期試験については評価判定基準に準ずる。
2. 授業の出欠状況については所定授業時数の2/3以上を出席とする。
3. 授業受講の態度については評価判定基準に基づき担当教員が評価を行う。
4. 提出物は期限内に提出していること。

評価判定基準

評価(点)	100～80	79～70	69～60	59以下
評価	A	B	C	D

*評価はC以上を合格とする。

【テキスト】

書名	著者名	出版社
化粧品化学		日本理容美容教育センター
ワークブック		日本理容美容教育センター

【参考文献】

書名	著者名	出版社
新化粧品学	光井 武夫	南山堂
化粧品成分ガイド	宇山 光男	フレグランスジャーナル社

【備考】

授業への出欠状況および授業中に授業に対する受講態度を重視する。

【必修科目】

埼玉東萌美容専門学校

授業科目 文化論

開講年次	1年後期	時間/単位	30時間/1単位	必選	必修	授業形態	講義
資格対応	美容師国家試験受験資格						
担当者	吉井さとみ						

【授業の概要】

美容業・理容業の変遷や、日本の文化に於ける多様な美の在り方の歴史を講義形式にて学ぶ。

【教育目標】

美容業・理容業の歴史及び日本の文化史を学ぶことで、日本の様々な美の価値基準を知り、視野を広げ、創造性を高めることを目的とする。また国家資格の取得に向けて必要な文化史の知識を網羅的に学ぶ。

【授業方法】

- ・教材及び各種資料(レジュメ)を用いて、原則として議述(講義)の形式で行う。
- ・学期末試験とは別に学期中に小テストを行うことがある。
- ・授業中に使用しているノートの提出を求めることがある。

【アクティブ・ラーニングの要素】

グループワーク	プレゼンテーション	ディスカッション ディベート	実習
—	—	—	—

【授業計画】

回	項目	内容	担当者名
1～2	イントロダクション、総論	日本の理容業・美容業の歴史(発生～現代)	吉井
3～4	ファッション文化史 日本編	縄文・弥生・古墳	吉井
5～6	ファッション文化史 日本編	飛鳥・奈良・平安時代	吉井
7～8	ファッション文化史 日本編	平安時代末・鎌倉・室町	吉井
9～10	ファッション文化史 日本編	戦国、戦国末・安土桃山時代	吉井
11～12	ファッション文化史 日本編	江戸時代①	吉井
13～14	ファッション文化史 日本編	江戸時代②	吉井
15～16	ファッション文化史 日本編	明治・大正・昭和20年まで ①	吉井
17～18	ファッション文化史 日本編	明治・大正・昭和20年まで ②	吉井
19～20	ファッション文化史 日本編	1945年～1950年代	吉井
21～22	ファッション文化史 日本編	1960年代～1970年代	吉井
23～24	ファッション文化史 日本編	1980年代～1990年代、2000年代以降	吉井
25～26	期末試験の説明、復習	総論、日本の理容業・美容業の歴史、縄文時代～安土桃山時代	吉井
27～28	期末試験の説明、復習	江戸時代～現代	吉井
29～30	まとめ・筆記試験	これまでのまとめ 筆記試験	吉井

【到達目標】

国家資格の取得に必要な文化史の知識を身に付ける。また、日本の様々な美の価値基準を知った上で、新しいデザインを創造する力を身に付ける。

【時間外学習(予習・復習・準備学習等)】

1回の授業後に復習として30分程度が望ましい。

【課題に対するフィードバックの方法】

提出されたノート、プリント類は定期試験、美容師国家試験受験時に活かせるように内容確認後返却しフィードバックを行う。

【成績評価の方法・基準】

方法

1. 定期試験
2. 授業の出欠状況
3. 授業受講の態度
4. 提出物

基準

1. 定期試験については評価判定基準に準ずる。
2. 授業の出欠状況については所定授業時数の2/3以上を出席とする。
3. 授業受講の態度については評価判定基準に基づき担当教員が評価を行う。
4. 提出物は期限内に提出していること。

評価判定基準

評価(点)	100～80	79～70	69～60	59以下
評定	A	B	C	D

*評定はC以上を合格とする。

【テキスト】

書名	著者名	出版社
文化論		日本理容美容教育センター
ワークブック		日本理容美容教育センター

【参考文献】

書名	著者名	出版社
授業中に適宜資料を配付する。		

【備考】

授業への出欠状況および授業中に授業に対する受講態度を重視する。

【必修科目】

埼玉東萌美容専門学校

授業科目 美容技術理論

開講年次	1年前後期	時間/単位	60時間/2単位	必選	必修	授業形態	講義
資格対応	美容師国家試験受験資格						
担当者	大塚日富美						

【授業の概要】

美容師としての心構え、美容技術の基礎理論を学ぶ事によって、美容技術の理解を高め、美容実習につなげていく。

【教育目標】

美容技術理論Ⅰ・Ⅱ（基礎理論）を学習し理解することによって、美容技術の習得を容易にする。学んだ事を土台として、トータル的に美容について修得していく。

【授業方法】

- ・教材及び各種資料(レジュメ)を用いて、原則として議述(講義)の形式で行う。
- ・学期末試験とは別に学期中に小テストを行うことがありうる。
- ・授業中に使用しているノートの提出を求めることがある。

【アクティブ・ラーニングの要素】

グループワーク	プレゼンテーション	ディスカッション ディベート	実習
○	—	—	—

【授業計画】

回	項目	内容	担当者名
1～2	技術理論概論	作業姿勢・人体各部の名称	大塚
3～4	美容用具	用具・コーム・ブラシ・シザーズ	大塚
5～6	美容用具	レザー・ピン類・ロッド・ローラー	大塚
7～8	美容用具	ヘアアイロン・ヘアドライヤー・ヘアスチーマー・遠赤外線機	大塚
9～10	エステティック	概論・皮膚の生理と構造	大塚
11～12	エステティック	カウンセリング・マッサージ理論	大塚
13～14	エステティック	フェイシャルケア技術(フェイシャル・デコルテマッサージ)	大塚
15～16	エステティック	ボディケア技術(ボディマッサージ)	大塚
17～18	シャンプーイング	シャンプーイング概論	大塚
19～20	シャンプーイング	サイドシャンプー・バックシャンプー	大塚
21～22	シャンプーイング	リンス・コンディショナー・トリートメント	大塚
23～24	シャンプーイング	スキャルプトリートメント・ヘッドスパ	大塚
25～26	ヘアカッティング	基礎理論・正しい姿勢	大塚
27～28	ヘアカッティング	美容刃物	大塚
29～30	まとめ・筆記試験	これまでのまとめ 筆記試験	大塚

回	項目	内容	担当者名
31～32	ヘアカッティング	シザー・レザーの扱い方・ベーシックなカット技法	大塚
33～34	ヘアカッティング	シザーズによるカット技法	大塚
35～36	ヘアカッティング	レザーによるカット技法	大塚
37～38	パーマメントウェービング	パーマメントウェーブ理論	大塚
38～40	パーマメントウェービング	パーマ剤の分類・注意事項・パーマメントウェーブ技術	大塚
41～42	パーマメントウェービング	ワインディングの種類・縮毛矯正	大塚
43～44	ヘアセッティング	ヘアセッティングとは・パーティング・シェービング	大塚
45～46	ヘアセッティング	カーリング・ヘアウェービング・ローラーカーリング	大塚
47～48	ヘアセッティング	ブロードドライ・アイロンセッティング	大塚
49～50	ヘアセッティング	バックコーミング・アップスタイル・ウィッグとヘアピース	大塚
51～52	ヘアカラーリング	概論・ヘアカラーの種類と特徴・パッチテスト	大塚
53～54	ヘアカラーリング	染毛のメカニズム・毛髪レベルとアンダートーン	大塚
55～56	ヘアカラーリング	アルカリ性カラーの使用道具、手順、準備事項、禁忌事項	大塚
57～58	ヘアカラーリング	酸性染毛料・ヘアブリーチ 使用道具、手順、準備事項、禁忌事項	大塚
59～60	まとめ・筆記試験	総まとめ 筆記試験	大塚

【到達目標】

美容技術の基礎となる理論を学び、理論に基づいた正確な技術修得につなげる。美容理論を学び幅広い知識を得ることで、ワロンワークに結び付け応用することが可能になる。

【時間外学習(予習・復習・準備学習等)】

1回の授業後に復習として30～60分程度が望ましい。

【課題に対するフィードバックの方法】

提出されたノート、プリント類は定期試験、美容師国家試験受験時に活かせるように内容確認後返却してフィードバックを行う。

【成績評価の方法・基準】

方法

1. 定期試験
2. 授業の出欠状況
3. 授業受講の態度
4. 提出物

基準

1. 定期試験については評価判定基準に準ずる。
2. 授業の出欠状況については所定授業時数の2/3以上を出席とする。
3. 授業受講の態度については評価判定基準に基づき担当教員が評価を行う。
4. 提出物は期限内に提出していること。

評価判定基準

評価(点)	100～80	79～70	69～60	59以下
評定	A	B	C	D

*評定はC以上を合格とする。

【テキスト】

書名	著者名	出版社
美容技術理論1		日本理容美容教育センター
ワークブック		日本理容美容教育センター

【参考文献】

書名	著者名	出版社
授業中に適宜資料を配布する。		

【備考】

授業への出欠状況および授業中に授業に対する受講態度を重視する。

【必修科目】

埼玉東萌美容専門学校

授業科目 美容実習*

開講年次	1年前期	時間/単位	210時間/7単位	必選	必修	授業形態	実習
資格対応	美容師国家試験受験資格						
担当者	大場利良*、大塚日富美*、橘紗絵子*、茅原智美*						

【授業の概要】

美容に関する基礎的理論と知識を学び、実習を通して基本技術を効率的に習得する。
ワインディングとオールウェーブセッティングは美容師国家試験課題に含まれるため重点をおく。
シャンプー、ヘアカッティング、エステティック、アップスタイリング等総合的に美容技術を習得する。

【教育目標】

国家試験の合格に主眼を置きながら、“サロンの現場”を主体とした実践的教育(技術)を導入し、技術力を的確に蓄積していく。

【授業方法】

授業方法の基本は実習である。技術の展示、技術ポイントについて講義を行うこともある。常に自らの技術を把握をしながら実習に取り組み総合的な力に繋げる。美容所にて現場経験のある実務家教員が、美容現場における事例を含めながら助言等をしていく。

【アクティブ・ラーニングの要素】

グループワーク	プレゼンテーション	ディスカッション ディベート	実習
○	—	—	○

【授業計画】

回	項目	内容	担当者名
1～2	美容用具	美容用具の確認と名称・美容用具の取り扱い方	大塚・大場
3～4	基本技術	スライス・シェーブ・頭部ブロッキング・ウィッグの取り扱い方	大塚・大場
5～6	基本技術	スライス・シェーブ・頭部ブロッキング	大塚・大場
7～8	ヘアカッティング	頭部ブロッキング、カットの基礎知識とシザーアクション	大塚・大場
9～10	ヘアカッティング	頭部ブロッキング、カットの基礎知識とシザーアクション	大塚・大場
11～12	エステティック	エステティック概論、基礎知識	大塚・大場
13～14	ヘアカッティング	モデルウィッグ(ワインディング用)のカット実践の技術、実践	大塚・茅原
15～16	ヘアカッティング	モデルウィッグ(ワインディング用)のカット実践の技術、実践	大塚・茅原
17～18	ヘアカッティング	モデルウィッグ(ワインディング用)のカット実践の技術、実践	大塚・茅原
19～20	エステティック	ウィッグでのフェイシャルトリートメント クレンジング～スチームタオル拭き取り(1)	大塚
21～22	ワインディング	国家試験課題 ブロッキングの展示・実践	大塚・大場
23～24	ワインディング	国家試験課題 ブロッキングの展示・実践	大塚・大場
25～26	シャンプー	プレーンリンシング展示・実践	大塚・大場
27～28	ワインディング	スライス、コーミングの展示・実践	大塚
29～30	ワインディング	上巻き展示・実践	大塚

回	項目	内容	担当者名
31～32	エステティック	ウィッグでのフェイシャルトリートメント クレンジング～スチームタオル拭き取り(2)	大塚
33～34	ワインディング	上巻き展示・実践	大塚
35～36	ワインディング	上巻き展示・実践	大塚
37～38	ワインディング	下巻き展示・実践	大塚
39～40	ワインディング	下巻き展示・実践	大塚・茅原
41～42	ワインディング	下巻き展示・実践	大塚・茅原
43～44	ワインディング	下巻き展示・実践	大塚・茅原
45～46	シャンプー	プレーンリンシング展示・実践	大塚・茅原
47～48	ワインディング	国家試験課題 センター 展示・実践	大塚
49～50	ワインディング	国家試験課題 センター 実践	大塚
51～52	エステティック	ウィッグでのフェイシャルトリートメント クレンジング～スチームタオル拭き取り(3)	大塚
53～54	ワインディング	国家試験課題 フロント・左右バックサイト展示・実践	大塚
55～56	ワインディング	国家試験課題 左右バックサイト・左右ネーブ展示実践	大塚
57～58	ワインディング	国家試験課題 左右ネーブ・左右サイド展示実践	大塚
59～60	ワインディング	国家試験課題 全頭	大塚・茅原
61～62	シャンプー	シャンプーイング(ファーストシャンプー)展示・実践	大塚・茅原
63～64	アップスタイリング	三つ編み・四つ編み・編み込み・フィッシュボーン ポニーテール	大塚・茅原
65～66	ワインディング	国家試験課題 全頭	大塚
67～68	ワインディング	国家試験課題 全頭	大塚
69～70	エステティック	ウィッグでのフェイシャルトリートメント クレンジング～スチームタオル拭き取り(4)	大塚
71～72	ワインディング	国家試験課題 全頭	大塚
73～74	ワインディング	国家試験課題 全頭	大塚
75～76	ワインディング	国家試験課題 全頭	大塚
77～78	エステティック	ウィッグでのフェイシャルトリートメント クレンジング～スチームタオル拭き取り(5)	大塚
79～80	シャンプー	シャンプーイング(ファーストシャンプー)展示・実践	大塚・橘
81～82	ヘアカッティング	モデルウィッグ(オールウェーブ用)のカット実践の技術、実践	大塚
83～84	ヘアカッティング	モデルウィッグ(オールウェーブ用)のカット実践の技術、実践	大塚
85～86	ヘアカッティング	モデルウィッグ(オールウェーブ用)のカット実践の技術、実践	大塚
87～88	ヘアカッティング	モデルウィッグ(オールウェーブ用)のカット実践の技術、実践	大塚
89～90	アップスタイリング	ヘアピンの留め方 逆毛の立て方	大塚・茅原

回	項目	内容	担当者名
91～92	シャンプー	シャンプーイング(ファーストシャンプー)実践	大塚・橘
93～94	ヘアセッティング	フィンガーウェーブ(シェープの引き方)展示・実施	大塚
95～96	ヘアセッティング	フィンガーウェーブ(シェープ、リッジ作り方)展示・実施	大塚
97～98	ヘアセッティング	フィンガーウェーブ(6線 1・2線目)展示・実施	大塚
99～100	ヘアセッティング	フィンガーウェーブ(6線 3・4線目)展示・実施	大塚
101～102	ヘアセッティング	フィンガーウェーブ(6線 1・2・ 3・4線目)展示・実施	大塚
103～104	ヘアセッティング	フィンガーウェーブ(6線 5・6線目)展示・実施	大塚
105～106	ヘアセッティング	フィンガーウェーブ(6線・クロッキノールカール)展示・実施	大塚
107～108	シャンプー	シャンプーイング(ファーストシャンプー)実践	大塚・橘
109～110	ワインディング	国家試験課題 全頭45分	大塚
111～112	アップスタイリング	ホットカーラー・ヘアアイロンを使用してのスタイリング	大塚・茅原
113～114	ワインディング	国家試験課題 全頭45分	大塚
115～116	シャンプー	シャンプーイング(ファーストシャンプー)実践	大塚・橘
117～118	ヘアセッティング	フィンガーウェーブ(6線・クロッキノールカール)展示・実施	大塚
119～120	ヘアセッティング	フィンガーウェーブ(6線・クロッキノールカール)展示・実施	大塚
121～122	ワインディング	国家試験課題 全頭45分	大塚
123～124	ワインディング	国家試験課題 全頭45分	大塚
125～126	シャンプー	シャンプーイング(ファーストシャンプー)実践	大塚・橘
127～128	ヘアセッティング	フィンガーウェーブ(6線・クロッキノールカール)実施	大塚
129～130	ヘアセッティング	フィンガーウェーブ(6線・クロッキノールカール)実施	大塚
131～132	ヘアセッティング	フィンガーウェーブ(6線・クロッキノールカール)実施	大塚
133～134	ヘアセッティング	フィンガーウェーブ(6線・クロッキノールカール)実施	大塚
135～136	ヘアセッティング	フィンガーウェーブ(6線・クロッキノールカール)実施	大塚
137～138	エステティック	ウイッグでのフェイシャルトリートメント マッサージ基本手技 軽擦法 (1)	大塚
139～140	ヘアセッティング	フィンガーウェーブ(6線・クロッキノールカール)実施	大塚
141～142	ヘアセッティング	フィンガーウェーブ(6線・クロッキノールカール)実施	大塚
143～144	ヘアセッティング	フィンガーウェーブ(6線・クロッキノールカール)実施	大塚
145～146	ヘアセッティング	フィンガーウェーブ(6線・クロッキノールカール)実施	大塚
147～148	シャンプー	シャンプーイング(ファーストシャンプー)実践	大塚・橘

回	項目	内容	担当者名
149～150	ヘアセッティング	フィンガーウェーブ(6線・クロッキノールカール)実施50分	大塚
151～152	ヘアセッティング	フィンガーウェーブ(6線・クロッキノールカール)実施50分	大塚
153～154	シャンプー	シャンプーイング(ファーストシャンプー)実践	大塚・橘
155～156	ヘアセッティング	フィンガーウェーブ(6線・クロッキノールカール)実施50分	大塚
157～158	ヘアセッティング	フィンガーウェーブ(6線・クロッキノールカール)実施50分	大塚
159～160	エステティック	ウイッグでのフェイシャルトリートメント マッサージ基本手技 軽擦法 (2)	大塚
161～162	ヘアセッティング	フィンガーウェーブ(6線・クロッキノールカール)実施50分	大塚
163～164	ヘアセッティング	フィンガーウェーブ(6線・クロッキノールカール)実施50分	大塚
165～166	シャンプー	シャンプーイング(ファーストシャンプー)実践	大塚・橘
167～168	ヘアセッティング	フィンガーウェーブ(6線・クロッキノールカール)実施50分	大塚
169～170	ヘアセッティング	フィンガーウェーブ(6線・クロッキノールカール)実施50分	大塚
171～172	ヘアセッティング	フィンガーウェーブ(6線・クロッキノールカール)実施45分	大塚
173～174	シャンプー	シャンプーイング(ファーストシャンプー)実践	大塚・橘
175～176	ワインディング	国家試験課題 全頭40分	大塚
177～178	ワインディング	国家試験課題 全頭40分	大塚
179～180	ワインディング	国家試験課題 全頭40分	大塚
181～182	ワインディング	国家試験課題 全頭40分	大塚
183～184	シャンプー	シャンプーイング(ファーストシャンプー)実践	大塚・橘
185～186	ヘアセッティング	フィンガーウェーブ(6線・クロッキノールカール)実施45分	大塚
187～188	ヘアセッティング	フィンガーウェーブ(6線・クロッキノールカール)実施45分	大塚
189～190	ヘアセッティング	フィンガーウェーブ(6線・クロッキノールカール)実施45分	大塚
191～192	シャンプー	シャンプーイング(ファーストシャンプー)実践	大塚・橘
193～194	ワインディング	国家試験課題 全頭40分	大塚
195～196	ワインディング	国家試験課題 全頭40分	大塚
197～198	エステティック	ウイッグでのフェイシャルトリートメント マッサージ基本手技 軽擦法 試験	大塚
199～200	ワインディング	国家試験課題 全頭40分	大塚
201～202	ワインディング	国家試験課題 全頭40分	大塚
203～204	ワインディング	国家試験課題 全頭40分	大塚
205～206	ワインディング	国家試験課題 全頭40分	大塚
207～208	シャンプー	シャンプーイング(ファーストシャンプー)試験	大塚・橘

回	項目	内容	担当者名
209～210	ワインディング	国家試験課題 全頭40分試験	大塚・大場

【到達目標】

国家試験課題であるワインディングとオールウェーブの技術力を高める。
サロンの現場にて対応できる技術力を的確に蓄積していく。

【時間外学習(予習・復習・準備学習等)】

学んだ技術を予習・復習し練習する。

【課題に対するフィードバックの方法】

担当者が課題についてのアドバイスを行う。次回の課題について指示を行う。

【成績評価の方法・基準】

方法

1. 定期試験
2. 授業の出欠状況
3. 授業受講の態度
4. 毎時間の技術評価

基準

1. 定期試験については評価判定基準に準ずる。
2. 授業の出欠状況については所定授業時数の4/5以上を出席とする。
3. 授業受講の態度については評価判定基準に基づき担当教員が評価を行う。
4. 毎時間の技術評価については評価判定基準に基づき担当教員が評価を行う。

評価判定基準

評価(点)	100～80	79～70	69～60	59以下
評価	A	B	C	D

*評価はC以上を合格とする。

【テキスト】

書名	著者名	出版社
美容実習1		日本理容美容教育センター
美容実習2		日本理容美容教育センター

【参考文献】

書名	著者名	出版社
認定フェイシャルエステティシャン 理論と技術		一般社団法人 日本エステティック協会

【備考】

授業への出欠状況および授業中に授業に対する受講態度を重視する。

【*実務経験のある教員等について】

担当者の氏名に*の付いている教員は、美容所において美容師としての実務経験を有しており、当該授業における美容技術の実習を指導する。

実務経験	美容所における美容師経験
実務経験の活かし方	美容師経験をもとに美容所における技術や実践的接客指導を行っていく

【必修科目】

埼玉東萌美容専門学校

授業科目 美容実習*

開講年次	1年後期	時間/単位	240時間/8単位	必修	必修	授業形態	実習
資格対応	美容師国家試験受験資格						
担当者	大場利良*、大塚日富美*、橘紗絵子*、茅原智美*						

【授業の概要】

美容に関する基礎的理論と知識を学び、実習を通して基本技術を効率的に習得する。
 ワインディングとオールウェーブセッティングは美容師国家試験課題に含まれるため重点をおく。
 シャンプー、ヘアカッティング、エステティック、アップスタイリング等総合的に美容技術を習得する。

【教育目標】

国家試験の合格に主眼を置きながら、“サロンの現場”を主体とした実践的教育(技術)を導入し、技術力を的確に蓄積していく。

【授業方法】

授業方法の基本は実習である。技術の展示、技術ポイントについて講義を行うこともある。常に自らの技術を把握をしながら実習に取り組み総合的な力に繋げる。美容所にて現場経験のある実務家教員が、美容現場における事例を含めながら助言等をしていく。

【アクティブ・ラーニングの要素】

グループワーク	プレゼンテーション	ディスカッション ディベート	実習
○	—	—	○

【授業計画】

回	項目	内容	担当者名
1～2	エステティック	ウィッグでのフェイシャルトリートメント マッサージ基本手技 軽擦法復習	大塚
3～4	ワインディング	国家試験課題 全頭35分	大塚
5～6	ワインディング	国家試験課題 全頭35分	大塚
7～8	ヘアセッティング	ピンカールフロントスカルプチュアカール技術展示・実施	大塚
9～10	ヘアセッティング	ピンカールフロントスカルプチュアカール技術展示・実施	大塚
11～12	エステティック	相モデルで クレンジング～マッサージ 軽擦法～スチームタオル拭き取り～仕上げ	大塚
13～14	ヘアセッティング	ピンカール3線目スカルプチュアカール技術展示・実施	大塚
15～16	ヘアセッティング	ピンカール3線目スカルプチュアカール技術展示・実施	大塚
17～18	ヘアセッティング	ピンカール4線目リフトカール技術展示・実施	大塚
19～20	ヘアセッティング	ピンカール4線目リフトカール技術展示・実施	大塚
21～22	エステティック	相モデルで クレンジング～マッサージ 軽擦法～スチームタオル拭き取り～仕上げ	大塚
23～24	ワインディング	国家試験課題 全頭35分	大塚
25～26	シャンプー	シャンプーイング(セカンドシャンプー)展示・実践	大塚・橘
27～28	ヘアセッティング	ピンカール5線目リフトカール技術展示・実施	大塚
29～30	ヘアセッティング	ピンカール5線目リフトカール技術展示・実施	大塚

回	項目	内容	担当者名
31～32	エステティック	相モデルで クレンジング～マッサージ 軽擦法～スチームタオル拭き取り～仕上げ	大塚
33～34	ワインディング (オールパーパス)	全頭40分	大塚
35～36	ワインディング (オールパーパス)	全頭40分	大塚
37～38	ワインディング (オールパーパス)	全頭40分	大塚
39～40	ワインディング (オールパーパス)	全頭40分	大塚
41～42	エステティック	相モデルで クレンジング～マッサージ 軽擦法～スチームタオル拭き取り～仕上げ 試験	大塚
43～44	ヘアセッティング	ピンカール6線目メイポールカール技術展示・実施	大塚
45～46	シャンプー	シャンプーイング(セカンドシャンプー)展示・実践	大塚・橘
47～48	ヘアカッティング	カット理論・シザーズの扱い方・シザーズ開閉・ブラシの扱い方	大塚
49～50	ヘアカッティング	ワンレングス	大塚
51～52	エステティック	相モデルで クレンジング～マッサージ 軽擦法～スチームタオル拭き取り～仕上げ 試験	大塚
53～54	ワインディング	オールパーパス ブロッキングの取り方 全頭巻	大塚
55～56	ワインディング	オールパーパス バランスのとり方と諸注意 全頭40分	大塚
57～58	ヘアセッティング	ピンカール6線目メイポールカール技術展示・実施	大塚
59～60	ヘアセッティング	ウェーブ、ピンカール技術の確認	大塚
61～62	シャンプー	シャンプーイング(ファーストシャンプー)展示・実践	大塚・橘
63～64	アップスタイリング	合わせスタイル1	大塚・茅原
65～66	アップスタイリング	合わせスタイル2	大塚・茅原
67～68	ヘアセッティング	全頭45分	大塚
69～70	ヘアセッティング	全頭45分	大塚
71～72	ヘアカッティング	ワンレングス	大塚
73～74	アップスタイリング	合わせスタイル3	大塚・茅原
75～76	アップスタイリング	合わせスタイル4	大塚・茅原
77～78	ワインディング	オールパーパス 全頭35分	大塚
79～80	シャンプー	シャンプーイング(セカンドシャンプー)展示・実践	大塚・橘
81～82	ヘアカッティング	ワンレングス	大塚・大場
83～84	アップスタイリング	夜会スタイル1	大塚・茅原
85～86	アップスタイリング	夜会スタイル2	大塚・茅原
87～88	ワインディング	オールパーパス 全頭35分	大塚
89～90	ヘアカッティング	グラデーション	大塚・大場

回	項目	内容	担当者名
91～92	シャンプー	シャンプーイング(セカンドシャンプー)展示・実践	大塚・橘
93～94	ヘアカッティング	グラデーションボブ	大塚・大場
95～96	ヘアセッティング	全頭35分	大塚
97～98	ワインディング	オールパーパス 全頭35分	大塚
99～100	ワインディング	オールパーパス 全頭35分	大塚
101～102	アップスタイリング	夜会スタイル3	大塚
103～104	アップスタイリング	夜会スタイル4	大塚
105～106	ヘアセッティング	全頭35分	大塚
107～108	シャンプー	シャンプーイング(セカンドシャンプー)展示・実践	大塚・橘
109～110	パーマメントウェーブ	デザイン巻1・ヘルプの仕方・1液、2液操作・テストカール	大塚
111～112	ヘアカッティング	ボブスタイル1	大塚・大場
113～114	ワインディング	デザイン巻2	大塚
115～116	シャンプー	技術復習	大塚・橘
117～118	ヘアセッティング	全頭35分	大塚
119～120	ヘアセッティング	全頭35分	大塚
121～122	ヘアカッティング	ボブスタイル2	大塚・大場
123～124	ワインディング	デザイン巻3	大塚
125～126	シャンプー	技術復習	大塚・橘
127～128	アップスタイリング	編み込みスタイル1	大塚
129～130	アップスタイリング	編み込みスタイル2	大塚
131～132	ヘアセッティング	全頭35分	大塚
133～134	ヘアセッティング	全頭35分	大塚
135～136	ヘアセッティング	全頭35分	大塚
137～138	ヘアカッティング	レイヤー	大塚・大場
139～140	ヘアセッティング	全頭35分	大塚
141～142	ヘアセッティング	全頭35分	大塚
143～144	ワインディング	オールパーパス 全頭35分	大塚
145～146	ワインディング	オールパーパス 全頭35分	大塚
147～148	シャンプー	技術復習	大塚・橘

回	項目	内容	担当者名
149～150	ヘアセッティング	全頭35分	大塚
151～152	ヘアセッティング	フィンガーウェーブ(6線・クロッキノールカール)実施50分	大塚
153～154	シャンプー	技術復習	大塚・橘
155～156	ヘアセッティング	全頭30分	大塚
157～158	ヘアセッティング	全頭30分	大塚
159～160	ヘアカッティング	レイヤー	大塚・大場
161～162	アップスタイリング	編み込みスタイル3	大塚・茅原
163～164	アップスタイリング	編み込みスタイル4	大塚・茅原
165～166	シャンプー	技術復習	大塚
167～168	ヘアセッティング	全頭30分	大塚
169～170	ヘアセッティング	全頭30分	大塚
171～172	ヘアセッティング	全頭30分	大塚
173～174	シャンプー	技術復習	大塚・橘
175～176	ヘアカッティング	レイヤー	大塚・大場
177～178	ワインディング	オールパーパス 全頭35分	大塚
179～180	ワインディング	オールパーパス 全頭35分	大塚
181～182	ワインディング	オールパーパス 全頭35分 チェック試験	大塚
183～184	シャンプー	技術復習	大塚・橘
185～186	ヘアカッティング	セイムレングスレイヤー	大塚・大場
187～188	ヘアセッティング	全頭30分	大塚
189～190	ヘアセッティング	全頭30分	大塚
191～192	シャンプー	技術復習	大塚・橘
193～194	ワインディング	国家試験課題 全頭30分	大塚
195～196	ワインディング	国家試験課題 全頭30分	大塚
197～198	ヘアカッティング	セイムレングスレイヤー	大塚・大場
199～200	ワインディング	国家試験課題 全頭25分	大塚
201～202	ワインディング	国家試験課題 全頭25分	大塚
203～204	アップスタイリング	アップスタイリング復習	大塚・茅原
205～206	アップスタイリング	アップスタイリング復習	大塚・茅原
207～208	シャンプー	シャンプーイング(セカンドシャンプー)試験25分	大塚・橘

回	項目	内容	担当者名
209～210	ワインディング	国家試験課題 全頭25分	大塚
211～212	ヘアカッティング	セイムレングスレイヤー	大塚・大場
213～214	ワインディング	国家試験課題 全頭25分	大塚
215～216	ワインディング	国家試験課題 全頭25分	大塚
217～218	ヘアセッティング	全頭30分	大塚
219～220	ワインディング	国家試験課題 全頭25分	大塚
221～222	ヘアセッティング	全頭30分	大塚
223～224	ワインディング	国家試験課題 全頭25分	大塚
225～226	ワインディング	国家試験課題 全頭25分	大塚
227～228	ワインディング	国家試験課題 全頭25分	大塚
229～230	ヘアセッティング	試験 7段構成 全頭30分	大塚
231～232	ワインディング	国家試験課題試験 全頭25分	大塚
233～234	ヘアカッティング	試験(ボブスタイル又はレイヤースタイル)	大塚・大場
235～236	アップスタイリング	試験(合わせ又は夜会を使用したデザイン)	大塚・茅原
237～238	ワインディング	国家試験課題 全頭25分 復習	大塚・大場
239～240	ヘアセッティング	全頭30分 復習	大塚・大場

【到達目標】

国家試験課題であるワインディングとオールウェーブの技術力を高める。
サロンの現場にて対応できる技術力を的確に蓄積していく。

【時間外学習(予習・復習・準備学習等)】

学んだ技術を予習・復習し練習する。

【課題に対するフィードバックの方法】

担当者が課題についてのアドバイスを行う。次回の課題について指示を行う。

【成績評価の方法・基準】

方法

1. 定期試験
2. 授業の出欠状況
3. 授業受講の態度
4. 毎時間の技術評価

基準

1. 定期試験については評価判定基準に準ずる。
2. 授業の出欠状況については所定授業時数の4/5以上を出席とする。
3. 授業受講の態度については評価判定基準に基づき担当教員が評価を行う。
4. 毎時間の技術評価については評価判定基準に基づき担当教員が評価を行う。

評価判定基準

評価(点)	100～80	79～70	69～60	59以下
評定	A	B	C	D

*評定はC以上を合格とする。

【テキスト】

書名	著者名	出版社
美容実習1		日本理容美容教育センター
美容実習2		日本理容美容教育センター
認定フェイシャルエステティシャン 理論と技術		一般社団法人 日本エステティック協会

【参考文献】

書名	著者名	出版社
特になし		

【備考】

授業への出欠状況および授業中に授業に対する受講態度を重視する。

【＊実務経験のある教員等について】

担当者の氏名に＊の付いている教員は、美容所において美容師としての実務経験を有しており、当該授業における美容技術の実習を指導する。

【＊実務経験のある教員等について】

担当者の氏名に＊の付いている教員は、美容所において美容師としての実務経験を有しており、当該授業における美容技術の実習を指導する。

実務経験	美容所における美容師経験
実務経験の活かし方	美容師経験をもとに美容所における技術や実践的接客指導を行っていく

【選択科目】

埼玉東萌美容専門学校

授業科目 人文科学*

開講年次	1年前後期	時間/単位	60時間/2単位	必選	選 択	授業形態	講義・実習
資格対応							
担当者	坂井裕子*						

【授業の概要】

社会人として求められる基本、挨拶・身だしなみ・言葉遣い・立ち居振舞い等の一般常識を習得させる。

【教育目標】

ビジネスマナーが何故、必要なのか考えさせ重要性を理解させる。

【授業方法】

- ・教材及び各種資料(レジュメ)を用いて、原則として議述(講義)の形式で行う。
- ・学期末試験とは別に学期中に小テストを行うことがある。
- ・授業中に使用しているノートの提出を求めることがある。

【アクティブ・ラーニングの要素】

グループワーク	プレゼンテーション	ディスカッション ディベート	実習
○	—	—	○

【授業計画】

回	項目	内容	担当者名
1～2	社会人としての基本	社会人として心がけること、気を付けるべきことを学ぶ	坂井
3～4	社会人としての基本	職場での基本モラルについて考える。ルールとマナー 基本行動について理解させる	坂井
5～6	社会人としての基本	仕事に対する基本姿勢について考えさせ、重要性を理解させる	坂井
7～8	社会人としての基本	職場での身だしなみファッション・マナーについて考える	坂井
9～10	社会人としての基本	職場での人間関係の必要性和築くための行動を学ぶ	坂井
11～12	正しい動作	挨拶、お辞儀についての正しい動作を学ぶ	坂井
13～14	正しい動作	挨拶、お辞儀の実践トレーニング	坂井
15～16	言葉づかい	聞き方、話し方の基本、言葉遣いの留意点 仕事でのコミュニケーションの基本を学ぶ	坂井
17～18	言葉づかい	敬語の種類と使い分けを学ぶ	坂井
19～20	接客の基礎	お客さまとの会話、接遇話法、社内コミュニケーションの 実践トレーニング(1)	坂井
21～22	接客の基礎	お客さまとの会話、接遇話法、社内コミュニケーションの 実践トレーニング(2)	坂井
23～24	接客の基礎	サロンでの接客の基礎(接遇の心構え、お迎えから お見送りまでの接客対応)	坂井
25～26	接客の基礎	お迎えからお見送りまでの接客対応の実践トレーニング	坂井
27～28	電話対応の基礎	電話対応の基礎(電話の受け方)	坂井
29～30	まとめ・筆記試験	これまでのまとめ 筆記試験	坂井
31～32	接客の実践	実践トレーニング(予約を受ける、アクセスのご案内 各種問い合わせ) 1回目	坂井

回	項目	内容	担当者名
33～34	接客の実践	実践トレーニング（予約を受ける、アクセスのご案内 各種問い合わせ）2回目	坂井
35～36	一般常識、マナー	名刺の渡し方、受け方、整理等の理解と実践トレーニング	坂井
37～38	一般常識、マナー	席次について学ぶ	坂井
39～40	一般常識、マナー	冠婚葬祭	坂井
41～42	採用選考対策	SPI対策1	坂井
43～44	採用選考対策	SPI対策2	坂井
45～46	接客の実践・応用	ケースで学ぶ理美容業の接客マナー（1）	坂井
47～48	接客の実践・応用	ケースで学ぶ理美容業の接客マナー（2）	坂井
49～50	接客の実践・応用	ケースで学ぶ理美容業の接客マナー（3）	坂井
51～52	接客の実践・応用	ケースで学ぶ理美容業の接客マナー（4）	坂井
53～54	接客の実践・応用	ケースで学ぶ理美容業の接客マナー（5）	坂井
55～56	接客の実践・応用	ケースで学ぶ理美容業の接客マナー（6）	坂井
57～58	目標設定・振り返り	自己実現について考える	坂井
59～60	まとめ・筆記試験	総まとめ 筆記試験	坂井

【到達目標】

社会人としての基本マナーを美容の現場で役立てる実践力を身につけさせる。

【時間外学習（予習・復習・準備学習等）】

授業後より日常生活の中で伝達したことを常に応用する。

【フィードバックの方法】

学校生活の中で常に学生とコミュニケーションを行うことで、フィードバックをしていく。

【成績評価の方法・基準】

方法

1. 定期試験
2. 授業の出欠状況
3. 授業受講の態度
4. 提出物

基準

1. 定期試験については評価判定基準に準ずる。
2. 授業の出欠状況については所定授業時数の2/3以上を出席とする。
3. 授業受講の態度については評価判定基準に基づき担当教員が評価を行う。
4. 提出物は期限内に提出していること。

評価判定基準

評価(点)	100～80	79～70	69～60	59以下
評定	A	B	C	D

*評定はC以上を合格とする。

【テキスト】

書名	著者名	出版社
ビジネスマナー		日本理容美容教センター
ケースで学ぶ理美容業の接遇マナー		早稲田教育出版
失敗しない敬語力		日本マネジメントリサーチ

【参考文献】

書名	著者名	出版社
必要に応じて資料を配付する。		

【備考】

授業への出欠状況および授業中に授業に対する受講態度を重視する。

【＊実務経験のある教員等について】

担当者の氏名に＊の付いている教員は、航空会社において客室乗務員としての実務経験を有しており、当該授業における社会人としての基本マナーを指導する。

実務経験	客室乗務員(CA)の経験
実務経験の活かし方	CA経験をもとに実践的なサービス接遇マナー指導を行っていく

【選択科目】

埼玉東萌美容専門学校

授業科目 美容サロンワーク*

開講年次	1年前後期	時間/単位	60時間/2単位	必選	選 択	授業形態	講義・実習
資格対応							
担当者	大場利良*、大塚日富美*、橘紗絵子*、小河原正輝*						

【授業の概要】

現在美容サロンで行われている美容師が情報発信するための様々な活動、技術を習得する。また美容業界の現状と未来を考える。

【教育目標】

美容に関する応用理論と知識を学びながらサロン技術を主眼に置きながら実践的な技術を導入し技術力を蓄積していく。美容業界のリアルな現状と学生が描いている美容業界とのギャップを埋める。

【授業方法】

常に自らの技術を把握をしながら実習に取り組み総合的な力に繋げる。

実務経験のある教員が、美容現場における事例を含めながら助言等をしていく。実際のサロンにてインターンシップを行う。

【アクティブ・ラーニングの要素】

グループワーク	プレゼンテーション	ディスカッション ディベート	実習
○	—	—	○

【授業計画】

回	項目	内容	担当者名
1～2	アップスタイリング	ブロッキング・編み込み・ゴムの結び方・ローラの巻き方(展示)(実習)	大塚
3～4	アップスタイリング	合わせデザイン(実習)(採点)(講評)	大塚・大場
5～6	アップスタイリング	夜会巻き(実習)(採点)(講評)	大塚・大場
7～8	アップスタイリング	シニヨンデザイン(展示)(実習)	大塚・大場
9～10	アップスタイリング	シニヨンデザイン(実習)(採点)(講評)	大塚・大場
11～12	アップスタイリング	ポンパドールデザイン(実習)(採点)(講評)	大塚・大場
13～14	まとめ	試験	大塚・大場
15～16	美容業界研究	美容業界研究の目的	小河原
17～18	美容業界研究	美容ディーラーについて	小河原
19～20	美容業界研究	美容器具メーカーについて	小河原
21～22	美容業界研究	カリスマ美容師について	小河原
23～24	美容業界研究	ママ美容師について	小河原
25～26	美容業界研究	ヘアメイクアップアーティストについて	小河原
27～28	美容業界研究	ハイブリット美容師について	小河原
29～30	美容業界研究	海外で活躍する美容師について	小河原

回	項目	内容	担当者名
31～32	美容業界研究	美容出版社から見た業界について	小河原
33～34	美容業界研究	美容業界の現状と未来	小河原
35～36	美容業界研究	まとめと発表	小河原
37～38	インターンシップ	オリエンテーション	大塚・大場
39～40	インターンシップ	各美容所にて研修	大塚・大場
41～42	インターンシップ	各美容所にて研修	大塚・大場
43～44	インターンシップ	各美容所にて研修	大塚・大場
45～46	インターンシップ	各美容所にて研修	大塚・大場
47～48	インターンシップ	各美容所にて研修	大塚・大場
49～50	インターンシップ	各美容所にて研修	大塚・大場
51～52	インターンシップ	各美容所にて研修	大塚・大場
53～54	インターンシップ	各美容所にて研修	大塚・大場
55～56	インターンシップ	各美容所にて研修	大塚・大場
57～58	インターンシップ	各美容所にて研修	大塚・大場
59～60	インターンシップ	発表・総括	大塚・大場

【到達目標】

就職後すみやかにサロンでの指導を受け入れられるための技術を習得する。

【時間外学習(予習・復習・準備学習等)】

学んだ技術を予習・復習し練習する。実習内容をノートにまとめる。

【フィードバックの方法】

担当者が課題についてのアドバイスをを行う。次回の課題について指示を行う。

【成績評価の方法・基準】

方法

1. 定期試験
2. 授業の出欠状況
3. 授業受講の態度
4. 毎時間の技術評価

基準

1. 定期試験については評価判定基準に準ずる。
2. 授業の出欠状況については所定授業時数の4/5以上を出席とする。
3. 授業受講の態度については評価判定基準に基づき担当教員が評価を行う。
4. 毎時間の技術評価については評価判定基準に基づき担当教員が評価を行う。

評価判定基準

評価(点)	100～80	79～70	69～60	59以下
評定	A	B	C	D

*評定はC以上を合格とする。

【テキスト】

書名	著者名	出版社
特になし		

【参考文献】

書名	著者名	出版社
特になし		

【備考】

授業への出欠状況および授業中に授業に対する受講態度を重視する。

【＊実務経験のある教員等について】

担当者の氏名に＊の付いている教員は、美容所において美容師としての実務経験を有しており、当該授業における美容技術の実習を指導する。

実務経験	美容所における美容師経験
実務経験の活かし方	美容師経験をもとに美容所における技術や実践的接遇指導を行っていく

【選択科目】

埼玉東萌美容専門学校

授業科目 美容ケア(メイク)*

開講年次	1年前期	時間/単位	30時間/1単位	必選	選 択	授業形態	講義・実習
資格対応	日本メイクアップ連盟 メイクアップ3級検定						
担当者	橘紗絵子*						

【授業の概要】

ヘアスタイリストとしての応用技術としてメイクアップの技術を学ぶ。

【教育目標】

流行に敏速に対応でき、流行を創作できる感性を習得し、美容界に貢献できる人材を育成する。

【授業方法】

授業方法の基本は実習である。技術の展示、技術ポイントをについて講義を行うこともある。常に自らの技術を把握をしながら実習に取り組み総合的な力に繋げる。実務経験のある教員が、美容現場における事例を含めながら助言等をしていく。

【アクティブ・ラーニングの要素】

グループワーク	プレゼンテーション	ディスカッション ディベート	実習
—	—	—	○

【授業計画】

回	項目	内容	担当者名
1～2	用具の種類	メイクに使用する用具の名称、使用方法、留意点	橘
3～4	スキンケア理論・実習	スキンケア実習(セルフ)	橘
5～6	ベースメイク理論・実習 ベースメイクデモ	ベースメイクの目的、実際の手順等の理論とデモ ベースメイク(セルフ)	橘
7～8	スキンケア～ベースメイク	スキン・ベース(相モデル)	橘
9～10	ポイントメイク1	アイメイク理論・実習 ベースメイクとアイメイク実習	橘
11～12	ポイントメイク2	アイブロー理論と実習 ベースメイク、アイメイク、アイブロー実習	橘
13～14	ポイントメイク3	リップメイク及び、ブラッシュオンメイク理論と実習 トータルメイクの完成	橘
15～16	フルメイク実習1	これまでの技術を通して行うフルメイク実習	橘
17～18	フルメイク実習2	これまでの技術を通して行うフルメイク実習	橘
19～20	フルメイク実習3	スキンケア(セルフ)ベースメイク～通し	橘
21～22	特殊メイク	傷、あざのメイクレッスン・ゾンビメイクなど	橘
23～24	3級対策1	フルメイク実習	橘
25～26	3級対策2	フルメイク実習	橘
27～28	3級対策3	フルメイク実習	橘
29～30	まとめ・試験	総まとめ 筆記・実技試験	橘

【到達目標】

サロンワーク応用技術(メイク)を習得する。

【時間外学習(予習・復習・準備学習等)】

学んだ技術を予習・復習し練習する。

【課題に対するフィードバックの方法】

担当者が課題についてのアドバイスをを行う。次回の課題について指示を行う。

【成績評価の方法・基準】

方法

1. 定期試験
2. 授業の出欠状況
3. 授業受講の態度
4. 毎時間の技術評価

基準

1. 定期試験については評価判定基準に準ずる。
2. 授業の出欠状況については所定授業時数の4/5以上を出席とする。
3. 授業受講の態度については評価判定基準に基づき担当教員が評価を行う。
4. 毎時間の技術評価については評価判定基準に基づき担当教員が評価を行う。。

評価判定基準

評価(点)	100～80	79～70	69～60	59以下
評価	A	B	C	D

*評価はC以上を合格とする。

【テキスト】

書名	著者名	出版社
美容技術理論2		日本理容美容教育センター

【参考文献】

書名	著者名	出版社
特になし		

【備考】

授業への出欠状況および授業中に授業に対する受講態度を重視する。

【*実務経験のある教員等について】

担当者の氏名に*の付いている教員は、美容所において美容師としての実務経験を有しており、当該授業におけるメイクアップ技術の実習を指導する。

実務経験	美容所における美容師経験
実務経験の活かし方	美容師経験をもとに実践的メイクアップ技術指導を行う

【選択科目】

埼玉東萌美容専門学校

授業科目 美容ケア(ネイル)*

開講年次	1年後期	時間/単位	30時間/1単位	必選	選 択	授業形態	講義・実習
資格対応	ネイリスト技能検定3級 JNAジェルネイル技能検定初級						
担当者	中村友美*						

【授業の概要】

ネイル基礎理論 爪の構造、爪のトラブル、皮膚学、ネイル化粧品学、衛生学。

ネイル基礎技術 ネイルケア、カラーリング、ネイルアート、ジェルアート。

【教育目標】

ネイルアートに必要な基礎知識と応用技術を学び、狭い限られた空間上にいかに効果的に表現していくかを勉強してもらう。

【授業方法】

授業方法の基本は実習である。技術の展示、技術ポイントをについて講義を行うこともある。常に自らの技術を把握をしながら実習に取り組み総合的な力に繋げる。実務経験のある教員が、美容現場における事例を含めながら助言等をしていく。

【アクティブ・ラーニングの要素】

グループワーク	プレゼンテーション	ディスカッション ディベート	実習
—	—	—	○

【授業計画】

回	項目	内容	担当者名
1～2	基礎理論・ジェルネイル	道具説明・爪の名称・ジェル、カラーの流れ	中村
3～4	基礎理論・ジェルネイル	プレパレーション メタルプッシャー・ファイリング・ニッパー	中村
5～6	ジェルネイル	塗りペーパーレッスン(ポリッシュ)(ライナー絵具) 5枚花・自分の手&相モデル	中村
7～8	ジェルネイル	ジェル流れ説明 実践自分・相モデル	中村
9～10	ジェルネイル	マッサージ ジェル チップにアート作成・ジェル相モデル1本作成	中村
11～12	ジェルネイル	ジェル チップにアート作成・ジェル相モデル2本作成 ジェルのオフ	中村
13～14	ジェルネイル	ジェル チップにアート作成・ジェル相モデル ジェルのオフ	中村
15～16	ジェルネイル	ジェル チップにアート作成・ジェル相モデル ジェルのオフ	中村
17～18	技能検定3級対策	検定注意事項&デモンストレーション	中村
19～20	技能検定3級対策	流れ・検定アート	中村
21～22	技能検定3級対策	消毒～ケア	中村
23～24	技能検定3級対策	カラー～アート	中村
25～26	技能検定3級対策	検定流れ	中村
27～28	技能検定3級対策	検定流れ	中村
29～30	まとめ・試験	総まとめ 筆記・実技試験	中村

【到達目標】

正しい知識と技術を習得し、安全で安心な技術の提供ができるよう身につける。
ネイルアートの様々な技術を習得、テーマに合わせた作品が作れるようにする。

【時間外学習(予習・復習・準備学習等)】

学んだ技術を予習・復習し練習する。

【課題に対するフィードバックの方法】

担当者が課題についてのアドバイスを行う。次回の課題について指示を行う。

【成績評価の方法・基準】

方法

1. 定期試験
2. 授業の出欠状況
3. 授業受講の態度
4. 毎時間の技術評価

基準

1. 定期試験については評価判定基準に準ずる。
2. 授業の出欠状況については所定授業時数の4/5以上を出席とする。
3. 授業受講の態度については評価判定基準に基づき担当教員が評価を行う。
4. 毎時間の技術評価については評価判定基準に基づき担当教員が評価を行う。

評価判定基準

評価(点)	100～80	79～70	69～60	59以下
評価	A	B	C	D

*評価はC以上を合格とする。

【テキスト】

書名	著者名	出版社
美容技術理論2		日本理容美容教育センター
JNAテクニカルシステム		NPO法人日本ネイリスト協会 教育委員会

【参考文献】

書名	著者名	出版社
特になし		

【備考】

授業への出欠状況および授業中に授業に対する受講態度を重視する。

【*実務経験のある教員等について】

担当者の氏名に*の付いている教員は、ネイルサロンにおいてネイリストとしての実務経験を有しており、当該授業におけるネイル技術の実習を指導する。

実務経験	ネイルサロンにおけるネイリスト経験
実務経験の活かし方	ネイリスト経験をもとに実践的ネイル技術指導を行う

【選択課目】

埼玉東萌美容専門学校

授業課目 創作美容*

開講年次	1年後期	時間/単位	30時間/1単位	必選	選 択	授業形態	講義・実習
資格対応							
担当者	大場利良*、大塚日富美*						

【授業の概要】

ヘアスタイリストとしての基礎～応用技術を学ぶ。

【教育目標】

流行に敏感に対応ができるようになり、その流行と自らの創作を表現できる感性と技術を習得する。

【授業方法】

自らの技術を把握をしながら実習に取り組み総合的な力に繋げる。

現場経験のある実務家教員が、美容現場における事例を含めながら助言等をしていく。

【アクティブ・ラーニングの要素】

グループワーク	プレゼンテーション	ディスカッション ディベート	実習
○	—	—	○

【授業計画】

回	項目	内容	担当者名
1～2	作品制作	グループ・テーマ決め・担当分担の振り分け	大塚
3～4	作品制作	各グループにおいてテーマに従い制作	大塚
5～6	作品制作	各グループにおいてテーマに従い制作	大塚
7～8	作品制作	各グループにおいてテーマに従い制作	大塚
9～10	作品制作	各グループにおいてテーマに従い制作	大塚
11～12	作品制作	各グループにおいてテーマに従い制作	大塚
13～14	作品制作	各グループにおいてテーマに従い制作	大塚
15～16	作品制作	合同制作	大塚・大場
17～18	作品制作	合同制作	大塚・大場
19～20	作品制作	合同制作	大塚・大場
21～22	作品制作	合同制作	大塚・大場
23～24	作品制作	リハーサル	大塚・大場
25～26	作品制作	リハーサル	大塚・大場
27～28	作品制作	発表・評価	大塚・大場
29～30	作品制作	発表・評価・反省	大塚・大場

【到達目標】

美容技術の総合力と美容造形の創作の習得。

【時間外学習(予習・復習・準備学習等)】

学んだ技術を予習・復習し練習する。実習内容をノートにまとめる。

【フィードバックの方法】

担当者が課題についてのアドバイスをを行う。次回の課題について指示を行う。

【成績評価の方法・基準】**方法**

1. 定期試験
2. 授業の出欠状況
3. 授業受講の態度
4. 毎時間の技術評価

基準

1. 定期試験については評価判定基準に準ずる。
2. 授業の出欠状況については所定授業時数の4/5以上を出席とする。
3. 授業受講の態度については評価判定基準に基づき担当教員が評価を行う。
4. 毎時間の技術評価については評価判定基準に基づき担当教員が評価を行う。

評価判定基準

評価(点)	100～80	79～70	69～60	59以下
評価	A	B	C	D

*評価はC以上を合格とする。

【テキスト】

書名	著者名	出版社
特になし		

【参考文献】

書名	著者名	出版社
特になし		

【備考】

授業への出欠状況および授業中に授業に対する受講態度を重視する。

【*実務経験のある教員等について】

担当者の氏名に*の付いている教員は、美容所において美容師としての実務経験を有しており、当該授業における美容創作指導する。

実務経験	美容所における美容師経験
実務経験の活かし方	美容師経験をもとに美容創作活動の楽しさや奥深さを指導を行っていく

【選択科目】

埼玉東萌美容専門学校

授業科目 美容モード理論*

開講年次	1年前後期	時間/単位	90時間/3単位	必選	選 択	授業形態	講義・実習
資格対応							
担当者	大場利良*、大塚日富美*						

【授業の概要】

ヘアスタイル、デザインの流行を学び表現するうえで大切なベーシック技術を繰り返し行う。
繰り返し行うことで、姿勢や体の使い方を体得していく。
現在美容サロンで行われている美容師の情報発信するための様々な活動、技術を習得する。

【教育目標】

基礎技術を習得する。美容に関する応用理論と知識を学びながらサロン技術を主眼に置きながら実践的な技術を導入し技術力を蓄積していく。

【授業方法】

授業方法の基本は実習である。技術の展示、技術ポイントをjについて講義を行うこともある。常に自らの技術を把握をしながら実習に取り組み総合的な力に繋げる。美容所にて実務経験のある教員が、美容現場における事例を含めながら助言等をしていく。

【アクティブ・ラーニングの要素】

グループワーク	プレゼンテーション	ディスカッション ディベート	実習
○	—	—	○

【授業計画】

回	項目	内容	担当者名
1～2	パーマメントウェーブ技術	基礎技術(国家試験巻き)	大塚
3～4	パーマメントウェーブ技術	基礎技術(国家試験巻き)	大塚
5～6	パーマメントウェーブ技術	基礎技術(国家試験巻き)	大塚
7～8	パーマメントウェーブ技術	基礎技術(国家試験巻き)	大塚
9～10	パーマメントウェーブ技術	基礎技術(国家試験巻き)	大塚
11～12	パーマメントウェーブ技術	基礎技術(国家試験巻き)	大塚
13～14	パーマメントウェーブ技術	基礎技術(国家試験巻き)	大塚
15～16	パーマメントウェーブ技術	基礎技術(国家試験巻き)	大塚
17～18	パーマメントウェーブ技術	基礎技術(国家試験巻き)	大塚
19～20	パーマメントウェーブ技術	基礎技術(国家試験巻き)	大塚
21～22	パーマメントウェーブ技術	基礎技術(国家試験巻き)	大塚
23～24	パーマメントウェーブ技術	基礎技術(国家試験巻き)	大塚
25～26	パーマメントウェーブ技術	基礎技術(国家試験巻き)	大塚
27～28	パーマメントウェーブ技術	基礎技術(国家試験巻き)	大塚
29～30	まとめ・試験	試験全頭30分	大塚・大場

回	項目	内容	担当者名
31～32	ヘアエクステンション技術	基本技術(付け毛の取り扱い、付け方、整え方他)	大塚
33～34	ヘアエクステンション技術	基本技術(付け毛の取り扱い、付け方、整え方他)	大塚
35～36	ヘアエクステンション技術	ウィッグを使用しての実践	大塚
37～38	ヘアエクステンション技術	ウィッグを使用しての実践	大塚
39～40	ヘアエクステンション技術	ウィッグを使用しての実践	大塚
41～42	ヘアエクステンション技術	応用技術・技術試験	大塚・大場
43～44	パーマメントウェーブ技術	基礎技術(オールパーパス巻き)	大塚
45～46	パーマメントウェーブ技術	基礎技術(オールパーパス巻き)	大塚
47～48	パーマメントウェーブ技術	基礎技術(オールパーパス巻き)	大塚
49～50	パーマメントウェーブ技術	基礎技術(オールパーパス巻き)	大塚
51～52	パーマメントウェーブ技術	基礎技術(オールパーパス巻き)	大塚
53～54	パーマメントウェーブ技術	基礎技術(オールパーパス巻き)	大塚
55～56	パーマメントウェーブ技術	基礎技術(オールパーパス巻き)	大塚
57～58	パーマメントウェーブ技術	基礎技術(オールパーパス巻き)	大塚
59～60	パーマメントウェーブ技術	基礎技術(オールパーパス巻き)	大塚
61～62	パーマメントウェーブ技術	基礎技術(オールパーパス巻き)	大塚
63～64	パーマメントウェーブ技術	基礎技術(オールパーパス巻き)	大塚
65～66	パーマメントウェーブ技術	基礎技術(オールパーパス巻き)	大塚
67～68	パーマメントウェーブ技術	基礎技術(オールパーパス巻き)	大塚
69～70	パーマメントウェーブ技術	基礎技術(オールパーパス巻き)試験	大塚
71～72	カラー	基本技術・リタッチ・ワンタッチ	大塚
73～74	カラー	ブリーチ・マニキュア	大塚
75～76	カラー	モデルをでのカラーの実践	大塚
77～78	カラー・撮影	モデルでのカラーの見せ方・撮影	大塚
79～80	カラー・撮影	モデルでのカラーの見せ方・撮影	大塚
81～82	撮影	スマートフォン、一眼レフカメラを使用しての撮影	大塚・大場
83～84	撮影	撮影レクチャー・グループでの撮影	大塚・大場
85～86	撮影	モデル準備・仕込	大塚・大場
87～88	撮影	モデル準備・仕込	大塚・大場
89～90	撮影	ライティングなど本格的な撮影	大塚・大場

【到達目標】

流行で変化するモードを表現するための基礎技術を習得する。就職後すみやかにサロンでの指導を受け入れられるための技術を習得する。

【時間外学習(予習・復習・準備学習等)】

学んだ技術を予習・復習し練習する。

【課題に対するフィードバックの方法】

担当者が課題についてのアドバイスを行う。次回の課題について指示を行う。

【成績評価の方法・基準】

方法

1. 定期試験
2. 授業の出欠状況
3. 授業受講の態度
4. 毎時間の技術評価

基準

1. 定期試験については評価判定基準に準ずる。
2. 授業の出欠状況については所定授業時数の4/5以上を出席とする。
3. 授業受講の態度については評価判定基準に基づき担当教員が評価を行う。
4. 毎時間の技術評価については評価判定基準に基づき担当教員が評価を行う。

評価判定基準

評価(点)	100～80	79～70	69～60	59以下
評価	A	B	C	D

*評価はC以上を合格とする。

【テキスト】

書名	著者名	出版社
美容実習1		日本理容美容教育センター
美容実習2		日本理容美容教育センター

【参考文献】

書名	著者名	出版社
特になし		

【備考】

授業への出欠状況および授業中に授業に対する受講態度を重視する。

【*実務経験のある教員等について】

担当者の氏名に*の付いている教員は、美容所において美容師としての実務経験を有しており、当該授業における美容技術の実習を指導する。

実務経験	美容所における美容師経験
実務経験の活かし方	美容師経験をもとに美容所における技術や実践的接客指導を行っていく

2 年 生

(2022年度入学生用)

【必修科目】

埼玉東萌美容専門学校

授業科目 衛生管理

開講年次	2年後期	時間/単位	30時間/1単位	必選	必修	授業形態	講義
資格対応	美容師国家試験受験資格						
担当者	大場利良						

【授業の概要】

美容師国家試験筆記出題重点項目である公衆衛生・環境衛生、感染症、消毒法の理解を深める。

【教育目標】

国家試験に全員合格することを目指す。美容の現場で活用できる消毒技術を深める。

【授業方法】

- ・教材及び各種資料(レジュメ)を用いて、原則として議述(講義)の形式で行う。
- ・演習問題。
- ・学期末試験とは別に学期中に小テストを行うことがありうる。

【アクティブ・ラーニングの要素】

グループワーク	プレゼンテーション	ディスカッション ディベート	実習
—	—	—	—

【授業計画】

回	項目	内容	担当者名
1～2	公衆衛生	演習問題を解く 解答 解説 質疑応答	大場
3～4	公衆衛生	演習問題を解く 解答 解説 質疑応答	大場
5～6	公衆衛生	演習問題を解く 解答 解説 質疑応答	大場
7～8	公衆衛生	演習問題を解く 解答 解説 質疑応答	大場
9～10	環境衛生	演習問題を解く 解答 解説 質疑応答	大場
11～12	環境衛生	演習問題を解く 解答 解説 質疑応答	大場
13～14	環境衛生	演習問題を解く 解答 解説 質疑応答	大場
15～16	感染症	演習問題を解く 解答 解説 質疑応答	大場
17～18	感染症	演習問題を解く 解答 解説 質疑応答	大場
19～20	感染症	演習問題を解く 解答 解説 質疑応答	大場
21～22	感染症	演習問題を解く 解答 解説 質疑応答	大場
23～24	衛生管理技術	演習問題を解く 解答 解説 質疑応答	大場
25～26	衛生管理技術	演習問題を解く 解答 解説 質疑応答	大場
27～28	衛生管理技術	演習問題を解く 解答 解説 質疑応答	大場
29～30	まとめ・筆記試験	総まとめ 筆記試験	大場

【到達目標】

教科書記載内容の十分な理解と、その応用ができるようにして国家試験筆記合格に向けて十分な知識を身につける。

【時間外学習(予習・復習・準備学習等)】

1回の授業後に復習として60～90分程度が望ましい。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業時の演習に使用した課題を美容師国家試験受験時に活かせるように内容確認後返却してフィードバックを行う。

【成績評価の方法・基準】

方法

1. 定期試験
2. 授業の出欠状況
3. 授業受講の態度
4. 提出物

基準

1. 定期試験については評価判定基準に準ずる。
2. 授業の出欠状況については所定授業時数の2/3以上を出席とする。
3. 授業受講の態度については評価判定基準に基づき担当教員が評価を行う。
4. 提出物は期限内に提出していること。

評価判定基準

評価(点)	100～80	79～70	69～60	59以下
評価	A	B	C	D

*評価はC以上を合格とする。

【テキスト】

書名	著者名	出版社
衛生管理		日本理容美容教育センター
ワークブック		日本理容美容教育センター
授業中に適宜演習問題を配付する。		

【参考文献】

書名	著者名	出版社
必要に応じて資料を配付する。		

【備考】

授業への出欠状況および授業中に授業に対する受講態度を重視する。

【必修科目】

埼玉東萌美容専門学校

授業科目 保健

開講年次	2年後期	時間/単位	30時間/1単位	必選	必修	授業形態	講義
資格対応	美容師国家試験受験資格						
担当者	吉井さとみ						

【授業の概要】

1年次の総復習及び国家試験対策。

【教育目標】

美容師は頭や顔を中心とする人間の美と健康に携わる保健衛生分野の職業上の特徴から、一般の人以上に「人体の構造及び機能」や皮膚や毛髪に関する「皮膚科学」についての知識が求められる。
1年次の復習を行い、基礎を固めることによって、演習で学習内容を活用できるようになる。

【授業方法】

- ・教材及び各種資料(レジュメ)を用いて、原則として議述(講義)の形式で行う。
- ・演習問題
- ・学期末試験とは別に学期中に小テストを行うことがありうる。
- ・授業中に使用しているノートの提出を求めることがある。

【アクティブ・ラーニングの要素】

グループワーク	プレゼンテーション	ディスカッション ディベート	実習
—	—	—	—

【授業計画】

回	項目	内容	担当者名
1～2	頭部、顔部、頸部の体表解剖学	配布資料・問題に沿って講義・演習	吉井
3～4	骨格器系	配布資料・問題に沿って講義・演習	吉井
5～6	筋系	配布資料・問題に沿って講義・演習	吉井
7～8	神経系	配布資料・問題に沿って講義・演習	吉井
9～10	感覚器系	配布資料・問題に沿って講義・演習	吉井
11～12	血液・循環器系	配布資料・問題に沿って講義・演習	吉井
13～14	呼吸器系	配布資料・問題に沿って講義・演習	吉井
15～16	消化器系	配布資料・問題に沿って講義・演習	吉井
17～18	皮膚の構造	配布資料・問題に沿って講義・演習	吉井
19～20	皮膚付属器官の構造	配布資料・問題に沿って講義・演習	吉井
21～22	皮膚の循環器系と神経系	配布資料・問題に沿って講義・演習	吉井
23～24	皮膚と皮膚付属器官の生理機能	配布資料・問題に沿って講義・演習	吉井
25～26	皮膚と皮膚付属器官の生理機能・保健	配布資料・問題に沿って講義・演習	吉井
27～28	皮膚と皮膚付属器官の保健	配布資料・問題に沿って講義・演習	吉井
29～30	まとめ・筆記試験	総まとめ 筆記試験	吉井

【到達目標】

美容師国家試験保健の問題を確実に解答できる知識を身につける(過去問の内容が理解でき、全て解くことができる)。

【時間外学習(予習・復習・準備学習等)】

1回の授業後に復習として60～90分程度が望ましい。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業時の演習に使用した課題を美容師国家試験受験時に活かせるように内容確認後返却してフィードバックを行う。

【成績評価の方法・基準】

方法

1. 定期試験
2. 授業の出欠状況
3. 授業受講の態度
4. 提出物

基準

1. 定期試験については評価判定基準に準ずる。
2. 授業の出欠状況については所定授業時数の2/3以上を出席とする。
3. 授業受講の態度については評価判定基準に基づき担当教員が評価を行う。
4. 提出物は期限内に提出していること。

評価判定基準

評価(点)	100～80	79～70	69～60	59以下
評定	A	B	C	D

*評定はC以上を合格とする。

【テキスト】

書名	著者名	出版社
保健		日本理容美容教育センター
ワークブック		日本理容美容教育センター
授業中に適宜演習問題を配付する。		

【参考文献】

書名	著者名	出版社
必要に応じて資料を配付する。		

【備考】

授業への出欠状況および授業中に授業に対する受講態度を重視する。

【必修科目】

埼玉東萌美容専門学校

授業科目 化粧品化学

開講年次	2年前期	時間/単位	30時間/1単位	必修	必修	授業形態	講義
資格対応	美容師国家試験受験資格						
担当者	大場利良						

【授業の概要】

基礎化粧品、メイクアップ化粧品、頭皮・毛髪用化粧品、芳香製品・特殊化粧品の項目にて解説する。美容師として業務上使用する化粧品に表示されている配合成分の化学的性質や配合目的などについて学ぶ。

【教育目標】

化粧品に用いられている原料の化学的性質や配合目的などについて学び、各種化粧品の有用性、安全性および使用目的について理解を深める。国家試験に全員合格することを目指す。美容の現場で活用できる化粧品原料の理解を深める。

【授業方法】

- ・教材及び各種資料(レジュメ)を用いて、原則として議述(講義)の形式で行う。
- ・学期末試験とは別に学期中に小テストを行うことがある。
- ・授業中に使用しているノートの提出を求めることがある。

【アクティブ・ラーニングの要素】

グループワーク	プレゼンテーション	ディスカッション ディベート	実習
—	—	—	—

【授業計画】

回	項目	内容	担当者名
1～2	皮膚清浄用化粧品	石けんの種類とその性質・その他の清浄剤	大場
3～4	化粧水・クリーム・乳液	化粧水の種類と機能性・クリーム、乳液の種類と機能 化粧水を実際に作る	大場
5～6	基礎化粧品	化粧液(美容液・美容エッセンス) シェービング用化粧品 打粉・パック剤	大場
7～8	ベースメイクアップ化粧品	おしろい・ファンデーション	大場
9～10	ポイントメイクアップ化粧品	頬紅・アイメイクアップ マニキュア製品	大場
11～12	シャンプー剤・育毛剤	シャンプー・リンス・トリートメント剤・育毛剤	大場
13～14	スタイリング剤	油性・液状・高分子物質を基剤とするスタイリング剤	大場
15～16	パーマ剤	パーマ剤種類とその機能	大場
17～18	ヘアカラー製品	ヘアカラー製品の種類とその機能	大場
19～20	芳香製品・特殊化粧品	香水・オーデコロン・その他の芳香製品	大場
21～22	芳香製品・特殊化粧品	サンケア製品・美白用化粧品・制汗、防臭剤・ニキビ用化粧品	大場
23～24	化粧品概論・化粧品用原料	演習問題を解く 解答 解説 質疑応答	大場
25～26	基礎化粧品 メイクアップ化粧品	演習問題を解く 解答 解説 質疑応答	大場
27～28	頭皮・東毛用化粧品 芳香製品と特殊化粧品	演習問題を解く 解答 解説 質疑応答	大場
29～30	まとめ・筆記試験	総まとめ 筆記試験	大場

【到達目標】

美容師国家試験化粧品化学の問題を確実に解答できる知識を身につける。美容師として化粧品に関するアドバイスが出来るよう、化粧品の有用性、安全性および使用目的に対する十分な知識を習得し、様々なことを目標とする。

【時間外学習(予習・復習・準備学習等)】

1回の授業後に復習として60～90分程度が望ましい。

【課題に対するフィードバックの方法】

提出されたノート、プリント類は定期試験、美容師国家試験受験時に活かせるように内容確認後返却してフィードバックを行う。

【成績評価の方法・基準】

方法

1. 定期試験
2. 授業の出欠状況
3. 授業受講の態度
4. 提出物

基準

1. 定期試験については評価判定基準に準ずる。
2. 授業の出欠状況については所定授業時数の2/3以上を出席とする。
3. 授業受講の態度については評価判定基準に基づき担当教員が評価を行う。
4. 提出物は期限内に提出していること。

評価判定基準

評価(点)	100～80	79～70	69～60	59以下
評価	A	B	C	D

*評価はC以上を合格とする。

【テキスト】

書名	著者名	出版社
化粧品化学		日本理容美容教育センター
ワークブック		日本理容美容教育センター
授業中に適宜演習問題を配付する。		

【参考文献】

書名	著者名	出版社
新化粧品学	光井 武夫	南山堂
化粧品成分ガイド	宇山 光男	フレグランスジャーナル社

【備考】

授業への出欠状況および授業中に授業に対する受講態度を重視する。

【必修課目】

埼玉東萌美容専門学校

授業課目 文化論

開講年次	2年前期	時間/単位	30時間/1単位	必選	必修	授業形態	講義
資格対応	美容師国家試験受験資格						
担当者	栗本浩二						

【授業の概要】

美容業・理容業の変遷や、日本・西洋それぞれの文化に於ける多様な美の在り方の歴史を講義形式にて学ぶ。

【教育目標】

美容業・理容業の歴史及び日本と西洋の文化史を学ぶことで、日本と西洋の様々な美の価値基準を知り、視野を広げ、創造性を高めることを目的とする。また国家資格の取得に向けて必要な文化史の知識を網羅的に学ぶ。

【授業方法】

- ・教材及び各種資料(レジュメ)を用いて、原則として議述(講義)の形式で行う。
- ・学期末試験とは別に学期中に小テストを行うことがありうる。
- ・授業中に使用しているノートの提出を求めることがある。

【アクティブ・ラーニングの要素】

グループワーク	プレゼンテーション	ディスカッション ディベート	実習
—	—	—	—

【授業計画】

回	項目	内容	担当者名
1～2	ファッション文化史 西洋編	古代エジプト・ギリシャ	栗本
3～4	ファッション文化史 西洋編	ローマ・ゲルマン、中世ヨーロッパ	栗本
5～6	ファッション文化史 西洋編	近世ⅠⅡⅢ	栗本
7～8	ファッション文化史 西洋編	近代ⅠⅡ	栗本
9～10	ファッション文化史 西洋編	現代ⅠⅡ	栗本
11～12	ファッション文化史 西洋編	現代ⅢⅣ	栗本
13～14	ファッション文化史 西洋編	現代ⅤⅥⅦ	栗本
15～16	ファッション文化史 西洋編	礼装の種類	栗本
17～18	ファッション文化史 日本編	復習・演習(日本の理容業・美容業の歴史)	栗本
19～20	ファッション文化史 日本編	復習・演習(縄文時代～安土桃山時代)	栗本
21～22	ファッション文化史 日本編	復習・演習(江戸時代～現代)	栗本
23～24	期末試験の説明、復習	復習(西洋編)	栗本
25～26	期末試験の説明、復習	復習(礼装・日本編重点箇所)	栗本
27～28	文化論総復習	まとめ(世界の様々なヘアメイク、芸術について)	栗本
29～30	まとめ・筆記試験	これまでのまとめ 筆記試験	栗本

【到達目標】

国家資格の取得に必要な文化史の知識を身に付ける。また、日本・西洋の様々な美の価値基準を知った上で、新しいデザインを創造する力を身に付ける。

【時間外学習(予習・復習・準備学習等)】

1回の授業後に復習として60分程度が望ましい。

【課題に対するフィードバックの方法】

提出されたノート、プリント類は定期試験、美容師国家試験受験時に活かせるように後日返却してフィードバックを行う。

【成績評価の方法・基準】

方法

1. 定期試験
2. 授業の出欠状況
3. 授業受講の態度
4. 提出物

基準

1. 定期試験については評価判定基準に準ずる。
2. 授業の出欠状況については所定授業時数の2/3以上を出席とする。
3. 授業受講の態度については評価判定基準に基づき担当教員が評価を行う。
4. 提出物は期限内に提出していること。

評価判定基準

評価(点)	100～80	79～70	69～60	59以下
評定	A	B	C	D

*評定はC以上を合格とする。

【テキスト】

書名	著者名	出版社
文化論		日本理容美容教育センター
ワークブック		日本理容美容教育センター

【参考文献】

書名	著者名	出版社
必要に応じて資料を配付する。		

【備考】

授業への出欠状況および授業中に授業に対する受講態度を重視する。

【必修科目】

埼玉東萌美容専門学校

授業科目 美容技術理論

開講年次	2年前後期	時間/単位	90時間/3単位	必選	必修	授業形態	講義
資格対応	美容師国家試験受験資格						
担当者	橘紗絵子						

【授業の概要】

美容師としての心構え、美容技術の基礎理論を学ぶ事によって、美容技術の理解を高め、美容実習につなげていく。

【教育目標】

美容技術理論Ⅰ・Ⅱ（基礎理論）を学習し理解することによって、美容技術の習得を容易にする。学んだ事を土台として、トータル的に美容について修得していく。国家試験に全員合格することを目指す。

【授業方法】

- ・教材及び各種資料(レジュメ)を用いて、原則として議述(講義)の形式で行う。
- ・学期末試験とは別に学期中に小テストを行うことがありうる。
- ・授業中に使用しているノートの提出を求めることがある。

【アクティブ・ラーニングの要素】

グループワーク	プレゼンテーション	ディスカッション ディベート	実習
○	—	—	—

【授業計画】

回	項目	内容	担当者名
1～2	ネイル技術	概論・技術と種類・爪の構造と機能・カット形状 手と足のマッサージ	橘
3～4	ネイル技術	ネイル技術と公衆衛生・カウンセリング・ネイルケア	橘
5～6	ネイル技術	アーティフィシャルネイル	橘
7～8	メイクアップ	概論・スキンケア・ベースメイクアップ	橘
9～10	メイクアップ	ポイントメイク・まつ毛エクステンション	橘
11～12	日本髪	日本髪の由来・各部の名称・種類と特徴	橘
13～14	日本髪	日本髪と調和・装飾品・結髪道具	橘
15～16	日本髪	結髪技術・手入れ法・かつら	橘
17～18	着付けの理論と技術	着物のいろいろ・着物各部の名称・たたみ方	橘
19～20	着付けの理論と技術	留袖・振袖・女子袴着付け技術と注意点	橘
21～22	着付けの理論と技術	男子羽織、袴着付け技術・婚礼技術の注意点	橘
23～24	着付けの理論と技術	和装	橘
25～26	ヘアデザイン	錯覚現象・デザインの要素	橘
27～28	ヘアデザイン	デザインの要素・デザインの原理	橘
29～30	まとめ・筆記試験	これまでのまとめ 筆記試験	橘

回	項目	内容	担当者名
31～32	美容用具	配布資料・問題に沿って講義・演習	橘
33～34	美容用具	配布資料・問題に沿って講義・演習	橘
35～36	シャンプーイング	配布資料・問題に沿って講義・演習	橘
37～38	シャンプーイング	配布資料・問題に沿って講義・演習	橘
39～40	ヘアデザイン・ヘアカッティング	配布資料・問題に沿って講義・演習	橘
41～42	ヘアデザイン・ヘアカッティング	配布資料・問題に沿って講義・演習	橘
43～44	パーネントウェービング	配布資料・問題に沿って講義・演習	橘
45～46	パーネントウェービング	配布資料・問題に沿って講義・演習	橘
47～48	ヘアセッティング	配布資料・問題に沿って講義・演習	橘
49～50	ヘアセッティング	配布資料・問題に沿って講義・演習	橘
51～52	ヘアカラーリング	配布資料・問題に沿って講義・演習	橘
53～54	ヘアカラーリング	配布資料・問題に沿って講義・演習	橘
55～56	エステティック	配布資料・問題に沿って講義・演習	橘
57～58	ネイル技術	配布資料・問題に沿って講義・演習	橘
59～60	メイクアップ	配布資料・問題に沿って講義・演習	橘
61～62	メイクアップ	配布資料・問題に沿って講義・演習	橘
63～64	日本髪	配布資料・問題に沿って講義・演習	橘
65～66	着付け	配布資料・問題に沿って講義・演習	橘
67～68	着付け	配布資料・問題に沿って講義・演習	橘
69～70	美容技術理論全般	配布資料・問題に沿って講義・演習	橘
71～72	美容技術理論全般	配布資料・問題に沿って講義・演習	橘
73～74	美容技術理論全般	配布資料・問題に沿って講義・演習	橘
75～76	美容技術理論全般	配布資料・問題に沿って講義・演習	橘
77～78	美容技術理論全般	配布資料・問題に沿って講義・演習	橘
79～80	美容技術理論全般	配布資料・問題に沿って講義・演習	橘
81～82	美容技術理論全般	配布資料・問題に沿って講義・演習	橘
83～84	美容技術理論全般	配布資料・問題に沿って講義・演習	橘
85～86	美容技術理論全般	配布資料・問題に沿って講義・演習	橘
87～88	美容技術理論全般	配布資料・問題に沿って講義・演習	橘
89～90	まとめ・筆記試験	総まとめ 筆記試験	橘

【到達目標】

美容技術の基礎となる理論を学び、理論に基づいた正確な技術修得につなげる。美容理論を学び幅広い知識を得ることで、ワロンワークに結び付け応用することが可能になる。美容師国家試験技術理論の問題を確実に解答できる知識を身につける。

【時間外学習(予習・復習・準備学習等)】

1回の授業後に復習として30～60分程度が望ましい。

【課題に対するフィードバックの方法】

提出されたノート、プリント類は定期試験、美容師国家試験受験時に活かせるように内容確認後返却してフィードバックを行う。

【成績評価の方法・基準】

方法

1. 定期試験
2. 授業の出欠状況
3. 授業受講の態度
4. 提出物

基準

1. 定期試験については評価判定基準に準ずる。
2. 授業の出欠状況については所定授業時数の2/3以上を出席とする。
3. 授業受講の態度については評価判定基準に基づき担当教員が評価を行う。
4. 提出物は期限内に提出していること。

評価判定基準

評価(点)	100～80	79～70	69～60	59以下
評価	A	B	C	D

*評価はC以上を合格とする。

【テキスト】

書名	著者名	出版社
美容技術理論1		日本理容美容教育センター
美容技術理論2		日本理容美容教育センター
ワークブック		日本理容美容教育センター

【参考文献】

書名	著者名	出版社
必要に応じて資料を配付する。		

【備考】

授業への出欠状況および授業中に授業に対する受講態度を重視する。

【必修課目】

埼玉東萌美容専門学校

授業課目 運営管理

開講年次	2年前期	時間/単位	30時間/1単位	必選	必修	授業形態	講義
資格対応	美容師国家試験受験資格						
担当者	嶋田律子						

【授業の概要】

美容をビジネスの観点から考察しサロン経営、店舗運営に直結する講義にするとともに、最新の美容業界の動きについても伝達していく。

【教育目標】

美容業界は今後ますます競争が激化していく中で、今後サロンが生き残っていくためには、経営・マネジメントの知識が必要不可欠である。将来サロンを持つときや店長となって店舗を管理するときに必要となる経営・マネジメントの基礎を学ぶ。

【授業方法】

- ・教材及び各種資料(レジュメ)を用いて、原則として議述(講義)の形式で行う。
- ・学期末試験とは別に学期中に小テストを行うことがありうる。
- ・授業中に使用しているノートの提出を求めることがある。

【アクティブ・ラーニングの要素】

グループワーク	プレゼンテーション	ディスカッション ディベート	実習
○	○	—	—

【授業計画】

回	項目	内容	担当者名
1～2	美容業の現状について	美容業はどのような状況なのか	嶋田
3～4	経営管理	企業の形態・美容業と料金	嶋田
5～6	経営管理	資金の管理(簿記・税務)	嶋田
7～8	経営管理	資金の管理(簿記・税務)	嶋田
9～10	マーケティング	マーケティングの基本	嶋田
11～12	マーケティング	マーケティング・ミックスの要因(短期的)	嶋田
13～14	マーケティング	マーケティング・ミックスの要因(長期的)	嶋田
15～16	労務管理	労務管理に関する知識	嶋田
17～18	労務管理	社会保障制度	嶋田
19～20	労務管理	キャリアプランの重要性	嶋田
21～22	労務管理	健康管理とその必要性	嶋田
23～24	接客	接客の本質・店内環境	嶋田
25～26	接客	受付の役割と意味・トラブルと謝罪	嶋田
27～28	接客	将来の自らの店を考える	嶋田
29～30	まとめ・筆記試験	総まとめ 筆記試験	嶋田

【到達目標】

美容業界をビジネスの観点から考察できる力を身につけ、就職、サロン経営をおこなうときに必要な知識とビジネス感覚を養う。

【時間外学習(予習・復習・準備学習等)】

1回の授業後に復習として30分程度が望ましい。

【課題に対するフィードバックの方法】

提出されたノート、プリント類は定期試験、美容師国家試験受験時に活かせるように後日返却してフィードバックを行う。

【成績評価の方法・基準】

方法

1. 定期試験
2. 授業の出欠状況
3. 授業受講の態度
4. 提出物

基準

1. 定期試験については評価判定基準に準ずる。
2. 授業の出欠状況については所定授業時数の2/3以上を出席とする。
3. 授業受講の態度については評価判定基準に基づき担当教員が評価を行う。
4. 提出物は期限内に提出していること。

評価判定基準

評価(点)	100～80	79～70	69～60	59以下
評価	A	B	C	D

*評価はC以上を合格とする。

【テキスト】

書名	著者名	出版社
運営管理		日本理容美容教育センター
ワークブック		日本理容美容教育センター
授業中に適宜演習問題を配付する。		

【参考文献】

書名	著者名	出版社
必要に応じて資料を配付する。		

【備考】

授業への出欠状況および授業中に授業に対する受講態度を重視する。

【必修科目】

埼玉東萌美容専門学校

授業科目 美容実習*

開講年次	2年前期	時間/単位	210時間/7単位	必選	必修	授業形態	実習
資格対応	美容師国家試験受験資格						
担当者	大場利良*、大塚日富美*、橘紗絵子*、茅原智美*						

【授業の概要】

美容に関する基礎的理論と知識を学び、実習を通して基本技術を効率的に習得する。
 ワインディングとオールウェーブセッティングは美容師国家試験課題に含まれるため重点をおく。
 シャンプー、ヘアカッティング、アップスタイル、着付技術等総合的に美容技術を習得する。

【教育目標】

国家試験の合格に主眼を置きながら、“サロンの現場”を主体とした実践的教育(技術)を導入し、技術力を的確に蓄積していく。

【授業方法】

授業方法の基本は実習である。技術の展示、技術ポイントについて講義を行うこともある。常に自らの技術を把握をしながら実習に取り組み総合的な力に繋げる。美容所にて現場経験のある実務家教員が、美容現場における事例を含めながら助言等をしていく。

【アクティブ・ラーニングの要素】

グループワーク	プレゼンテーション	ディスカッション ディベート	実習
—	—	—	○

【授業計画】

回	項目	内容	担当者名
1～2	ワインディング	国家試験課題 1年次復習及び注意点	橘
3～4	ワインディング	国家試験課題 全頭25分	橘
5～6	ワインディング	国家試験課題 全頭25分	橘
7～8	ワインディング	国家試験課題 全頭25分	橘
9～10	ワインディング	国家試験課題 全頭25分	橘
11～12	ワインディング	オールパーパス 23分	橘
13～14	ワインディング	オールパーパス 23分	橘
15～16	シャンプー	シャンプーイング(セカンドシャンプー)20分	橘・大塚
17～18	ヘアカッティング	国家試験課題 カッティング構成と技術	橘・茅原
19～20	ヘアカッティング	セクション別によるプロセス説明	橘・茅原
21～22	ヘアカッティング	セクション別によるプロセス説明	橘・茅原
23～24	ワインディング	オールパーパス 23分	橘
25～26	ワインディング	オールパーパス 23分	橘
27～28	ワインディング	オールパーパス 23分	橘
29～30	ワインディング	オールパーパス 23分	橘

回	項目	内容	担当者名
31～32	シャンプー	シャンプーイング(セカンドシャンプー)20分	橘・大塚
33～34	ヘアカッティング	国家試験課題 ブロッキング実践	橘
35～36	ヘアカッティング	国家試験課題 ブロッキング実践	橘
37～38	ヘアカッティング	国家試験課題 カット実践(ヘムライン・ネーブ)	橘
39～40	ヘアカッティング	国家試験課題 カット実践(ミドル・トップ)	橘
41～42	ヘアカッティング	国家試験課題 カット実践(サイド・バング)	橘
43～44	ヘアカッティング	国家試験課題 仕上げ、全頭復習	橘
45～46	ヘアセッティング	国家試験課題 全頭30分	橘・茅原
47～48	ヘアセッティング	国家試験課題 全頭30分	橘・茅原
49～50	シャンプー	シャンプーイング(セカンドシャンプー)20分	橘・大塚
51～52	ヘアカッティング	国家試験課題 全頭復習	橘
53～54	ヘアカッティング	国家試験課題 全頭復習	橘
55～56	ヘアカッティング	国家試験課題 全頭復習	橘
57～58	ヘアカッティング	国家試験課題 全頭復習	橘
59～60	ヘアカッティング	国家試験課題 全頭復習	橘
61～62	シャンプー	シャンプーイング(セカンドシャンプー)20分	橘・大塚
63～64	ヘアカッティング	国家試験課題 全頭30分	橘
65～66	ヘアカッティング	国家試験課題 全頭30分	橘
67～68	ヘアカッティング	国家試験課題 全頭30分	橘
69～70	ヘアカッティング	国家試験課題 全頭30分	橘
71～72	ヘアセッティング	国家試験課題 全頭25分	橘・茅原
73～74	ヘアセッティング	国家試験課題 全頭28分	橘・茅原
75～76	ヘアセッティング	国家試験課題 全頭28分	橘・茅原
77～78	シャンプー	シャンプーイング(セカンドシャンプー)20分	橘・茅原
79～80	ワインディング	オールパーパス 23分	橘
81～82	ワインディング	オールパーパス 23分	橘
83～84	ワインディング	オールパーパス 23分	橘
85～86	シャンプー	シャンプーイング(セカンドシャンプー)20分	橘・大塚
87～88	ヘアセッティング	国家試験課題 全頭28分	橘・茅原
89～90	ヘアセッティング	国家試験課題 全頭28分	橘・茅原

回	項目	内容	担当者名
91～92	ワインディング	オールパーパス 23分	橘
93～94	ワインディング	オールパーパス 23分	橘
95～96	ワインディング	オールパーパス 20分	橘
97～98	ワインディング	オールパーパス 20分	橘
99～100	ワインディング	オールパーパス 20分	橘
101～102	ヘアセッティング	国家試験課題全頭 25分	橘・茅原
103～104	ヘアセッティング	国家試験課題全頭 25分	橘・茅原
105～106	ヘアセッティング	国家試験課題全頭 25分	橘・茅原
107～108	ヘアセッティング	国家試験課題全頭 25分	橘・茅原
109～110	ヘアセッティング	国家試験課題全頭 25分	橘・茅原
111～112	シャンプー・セット	シャンプーイング(セカンドシャンプー)・ブロー40分	橘・大塚
113～114	ヘアカッティング	国家試験課題 30分	橘
115～116	ヘアカッティング	国家試験課題 30分	橘
117～118	ヘアカッティング	国家試験課題 25分	橘
119～120	ヘアカッティング	国家試験課題 25分	橘
121～122	ワインディング	オールパーパス 20分	橘
123～124	ワインディング	オールパーパス 20分	橘
125～126	シャンプー	シャンプーイング(セカンドシャンプー)18分	橘・大塚
127～128	ヘアカッティング	国家試験課題 25分	橘
129～130	ヘアカッティング	国家試験課題 25分	橘
131～132	ヘアカッティング	国家試験課題 25分	橘
133～134	ヘアカッティング	国家試験課題 25分	橘
135～136	ヘアカッティング	国家試験課題 25分	橘
137～138	ヘアカッティング	国家試験課題 25分	橘
139～140	ヘアセッティング	国家試験課題 全頭25分	橘
141～142	ヘアセッティング	国家試験課題 全頭25分	橘
143～144	ヘアセッティング	国家試験課題 全頭25分	橘
145～146	ヘアセッティング	国家試験課題 全頭25分	橘
147～148	シャンプー	シャンプーイング(セカンドシャンプー)18分	橘・大塚

回	項目	内容	担当者名
149～150	着付技術	着物各部の名称・帯・小物の解説	橘
151～152	着付技術	浴衣の着付け・着物のたたみ方	橘
153～154	シャンプー	シャンプーイング(セカンドシャンプー)15分	橘・大塚
155～156	ヘアカッティング	国家試験課題 全頭25分	橘
157～158	ヘアカッティング	国家試験課題 全頭25分	橘
159～160	ヘアカッティング	国家試験課題 全頭25分	橘
161～162	ヘアセッティング	国家試験課題 全頭25分	橘・茅原
163～164	ヘアセッティング	国家試験課題 全頭25分	橘・茅原
165～166	シャンプー	シャンプーイング(セカンドシャンプー)15分	橘・大塚
167～168	ヘアセッティング	国家試験課題 全頭25分	橘・茅原
169～170	ヘアセッティング	国家試験課題 全頭25分	橘・茅原
171～172	ヘアセッティング	国家試験課題 全頭25分	橘・茅原
173～174	シャンプー	シャンプーイング(セカンドシャンプー)15分	橘・大塚
175～176	ワインディング	オールパーパス 20分	橘
177～178	ワインディング	オールパーパス 20分	橘
179～180	ワインディング	オールパーパス 20分	橘
181～182	ワインディング	オールパーパス 20分 試験	橘
183～184	シャンプー	シャンプーイング(セカンドシャンプー)15分	橘・大塚
185～186	着付技術	浴衣の着付け	大塚
187～188	着付技術	浴衣の着付け	大塚
189～190	ヘアセッティング	国家試験課題 全頭25分	橘・茅原
191～192	ヘアセッティング	国家試験課題 全頭25分 試験	橘・大場
193～194	着付技術	浴衣の着付け	大塚
195～196	着付技術	浴衣の着付け 試験	大塚
197～198	シャンプー	シャンプーイング(セカンドシャンプー)15分	橘・大塚
199～200	ヘアカッティング	国家試験課題 全頭25分	橘
201～202	ヘアカッティング	国家試験課題 全頭20分 試験	橘・大場
203～204	ワインディング	国家試験課題 全頭20分 復習	橘
205～206	ワインディング	全頭20分	橘
207～208	シャンプー	シャンプーイング(セカンドシャンプー) 試験15分	橘・大塚

回	項目	内容	担当者名
209～210	ワインディング	国家試験課題 全頭20分 試験	橘・大場

【到達目標】

国家試験課題であるワインディングとオールウェーブの技術力を高める。
サロンの現場にて対応できる技術力を的確に蓄積していく。

【時間外学習(予習・復習・準備学習等)】

学んだ技術を予習・復習し練習する。

【課題に対するフィードバックの方法】

担当者が課題についてのアドバイスを行う。次回の課題について指示を行う。

【成績評価の方法・基準】

方法

1. 定期試験
2. 授業の出欠状況
3. 授業受講の態度
4. 毎時間の技術評価

基準

1. 定期試験については評価判定基準に準ずる。
2. 授業の出欠状況については所定授業時数の4/5以上を出席とする。
3. 授業受講の態度については評価判定基準に基づき担当教員が評価を行う。
4. 毎時間の技術評価については評価判定基準に基づき担当教員が評価を行う。

評価判定基準

評価(点)	100～80	79～70	69～60	59以下
評価	A	B	C	D

*評価はC以上を合格とする。

【テキスト】

書名	著者名	出版社
美容実習1		日本理容美容教育センター
美容実習2		日本理容美容教育センター

【参考文献】

書名	著者名	出版社
特になし。		

【備考】

授業への出欠状況および授業中に授業に対する受講態度を重視する。

【*実務経験のある教員等について】

担当者の氏名に*の付いている教員は、美容所において美容師としての実務経験を有しており、当該授業における美容技術の実習を指導する。

実務経験	美容所における美容師経験
実務経験の活かし方	美容師経験をもとに美容所における技術や実践的接客指導を行っていく

【必修科目】

埼玉東萌美容専門学校

授業科目 美容実習*

開講年次	2年後期	時間/単位	240時間/8単位	必選	必修	授業形態	実習
資格対応	美容師国家試験受験資格						
担当者	大場利良*、大塚日富美*、橘紗絵子*、茅原智美*						

【授業の概要】

美容に関する基礎的理論と知識を学び、実習を通して基本技術を効率的に習得する。
 ワインディングとオールウェーブセッティングは美容師国家試験課題に含まれるため重点をおく。
 シャンプー、ヘアカッティング、着付技術等総合的に美容技術を習得する。

【教育目標】

国家試験の合格に主眼を置きながら、“サロンの現場”を主体とした実践的教育(技術)を導入し、技術力を的確に蓄積していく。

【授業方法】

授業方法の基本は実習である。技術の展示、技術ポイントについて講義を行うこともある。常に自らの技術を把握をしながら実習に取り組み総合的な力に繋げる。美容所にて現場経験のある実務家教員が、美容現場における事例を含めながら助言等をしていく。

【アクティブ・ラーニングの要素】

グループワーク	プレゼンテーション	ディスカッション ディベート	実習
○	—	—	○

【授業計画】

回	項目	内容	担当者名
1～2	アップスタイル	テーマに合わせ作品を創作し作り上げる	橘
3～4	アップスタイル	テーマに合わせ作品を創作し作り上げる	橘
5～6	アップスタイル	テーマに合わせ作品を創作し作り上げる	橘
7～8	アップスタイル	テーマに合わせ作品を創作し作り上げる	橘
9～10	アップスタイル	テーマに合わせ作品を創作し作り上げる	橘
11～12	アップスタイル	テーマに合わせ作品を創作し作り上げる	橘
13～14	アップスタイル	テーマに合わせ作品を創作し作り上げる	橘
15～16	アップスタイル	テーマに合わせ作品を創作し作り上げる	橘
17～18	アップスタイル	テーマに合わせ作品を創作し作り上げる	橘
19～20	アップスタイル	テーマに合わせ作品を創作し作り上げる	橘
21～22	アップスタイル	テーマに合わせ作品を創作し作り上げる	橘
23～24	アップスタイル	テーマに合わせ作品を創作し作り上げる	橘
25～26	アップスタイル	テーマに合わせ作品を創作し作り上げる	橘
27～28	アップスタイル	テーマに合わせ作品を創作し作り上げる	橘
29～30	アップスタイル	テーマに合わせ作品を創作し作り上げる	橘

回	項目	内容	担当者名
31～32	アップスタイル	テーマに合わせ作品を作り上げる	橘・大場
33～34	アップスタイル	テーマに合わせ作品を作り上げる	橘・大場
35～36	アップスタイル	作品発表・評価	橘・大場
37～38	ヘアカッティング	国家試験課題 全頭20分 復習及び注意点の確認	橘
39～40	ヘアカッティング	国家試験課題 全頭20分 復習及び注意点の確認	橘
41～42	ヘアカッティング	国家試験課題 全頭20分 復習及び注意点の確認	橘
43～44	シャンプー・セット	シャンプーイング(セカンドシャンプー)・ブロー40分	橘
45～46	ワインディング	国家試験課題 全頭20分 復習及び注意点の確認	橘
47～48	ワインディング	国家試験課題 全頭20分 復習及び注意点の確認	橘
49～50	ワインディング	国家試験課題 全頭20分 復習及び注意点の確認	橘
51～52	ワインディング	国家試験課題 全頭20分 復習及び注意点の確認	橘
53～54	ヘアセッティング	国家試験課題 全頭25分 復習及び注意点の確認	橘・茅原
55～56	ヘアセッティング	国家試験課題 全頭25分 復習及び注意点の確認	橘・茅原
57～58	ヘアセッティング	国家試験課題 全頭25分 復習及び注意点の確認	橘・茅原
59～60	ヘアセッティング	国家試験課題 全頭25分 復習及び注意点の確認	橘・茅原
61～62	国家試験課題	第二課題 タイム取り作成・評価	橘
63～64	国家試験課題	第二課題 タイム取り作成・評価	橘
65～66	国家試験課題	第二課題 タイム取り作成・評価	橘
67～68	国家試験課題	第二課題 タイム取り作成・評価	橘
69～70	国家試験課題	第二課題 タイム取り作成・評価	橘
71～72	国家試験課題	第二課題 タイム取り作成・評価	橘
73～74	国家試験課題	第一課題 タイム取り作成・評価	橘
75～76	国家試験課題	第一課題 タイム取り作成・評価	橘
77～78	国家試験課題	第一課題 タイム取り作成・評価	橘
79～80	国家試験課題	第一課題 タイム取り作成・評価	橘
81～82	国家試験課題	第一課題 タイム取り作成・評価	橘
83～84	国家試験課題	第一課題 タイム取り作成・評価	橘
85～86	国家試験課題	第二課題 タイム取り作成・評価	橘
87～88	国家試験課題	第一課題 タイム取り作成・評価	橘
89～90	国家試験課題	第二課題 タイム取り作成・評価	橘

回	項目	内容	担当者名
91～92	国家試験課題	第一課題 タイム取り作成・評価	橘
93～94	国家試験課題	第二課題 タイム取り作成・評価	橘
95～96	国家試験課題	第一課題 タイム取り作成・評価	橘
97～98	国家試験課題	第二課題 タイム取り作成・評価	橘
99～100	国家試験課題	第一課題 タイム取り作成・評価	橘
101～102	国家試験課題	第二課題 タイム取り作成・評価	橘
103～104	国家試験課題	第一課題 タイム取り作成・評価	橘
105～106	国家試験課題	第二課題 タイム取り作成・評価	橘
107～108	国家試験課題	第一課題・第二課題通し	橘
109～110	国家試験課題	第一課題・第二課題通し	橘
111～112	国家試験課題	第一課題・第二課題通し	橘
113～114	国家試験課題	第一課題・第二課題通し	橘
115～116	国家試験課題	第一課題・第二課題通し	橘
117～118	国家試験課題	第一課題・第二課題通し	橘
119～120	国家試験課題	第一課題・第二課題通し	橘
121～122	国家試験課題	第一課題・第二課題通し	橘
123～124	国家試験課題	第一課題・第二課題通し	橘
125～126	国家試験課題	第一課題・第二課題通し	橘
127～128	国家試験課題	第一課題・第二課題通し	橘
129～130	国家試験課題	第一課題・第二課題通し	橘
131～132	国家試験課題	第一課題・第二課題通し	橘
133～134	国家試験課題	第一課題・第二課題通し	橘
135～136	国家試験課題	第一課題・第二課題通し	橘
137～138	国家試験課題	第一課題・第二課題通し	橘
139～140	国家試験課題	第一課題・第二課題通し	橘
141～142	国家試験課題	第一課題・第二課題通し	橘
143～144	国家試験課題	第一課題・第二課題通し	橘
145～146	国家試験課題	第一課題・第二課題通し	橘
147～148	国家試験課題	第一課題・第二課題通し	橘

回	項目	内容	担当者名
149～150	国家試験課題	第一課題・第二課題通し	橘
151～152	国家試験課題	第一課題・第二課題通し	橘
153～154	国家試験課題	第一課題・第二課題通し	橘
155～156	国家試験課題	第一課題・第二課題通し	橘
157～158	ワインディング	国家試験課題 全頭 19分 試験	橘・大塚
159～160	ヘアカッティング	国家試験課題 全頭 19分 試験	橘・大塚
161～162	ヘアセッティング	国家試験課題 全頭 23分 試験	橘・大塚
163～164	シャンプー・セット	シャンプーイング(セカンドシャンプー)・ブロー40分	橘・大塚
165～166	シャンプー・セット	シャンプーイング(セカンドシャンプー)・ブロー40分	橘・大塚
167～168	シャンプー・セット	シャンプーイング(セカンドシャンプー)・ブロー40分	橘・大塚
169～170	シャンプー・セット	シャンプーイング(セカンドシャンプー)・ブロー40分	橘・大塚
171～172	シャンプー・セット	シャンプーイング(セカンドシャンプー)・ブロー40分	橘・大塚
173～174	シャンプー・セット	シャンプーイング(セカンドシャンプー)・ブロー40分	橘・大塚
175～176	シャンプー・セット	シャンプーイング(セカンドシャンプー)・ブロー40分	橘・大塚
177～178	シャンプー・セット	シャンプーイング(セカンドシャンプー)・ブロー40分	橘・大塚
179～180	シャンプー・セット	シャンプーイング(セカンドシャンプー)・ブロー40分	橘・大塚
181～182	シャンプー・セット	シャンプーイング(セカンドシャンプー)・ブロー40分	橘・大塚
183～184	シャンプー・セット	シャンプーイング(セカンドシャンプー)・ブロー35分	橘・大塚
185～186	シャンプー・セット	シャンプーイング(セカンドシャンプー)・ブロー35分	橘・大塚
187～188	シャンプー・セット	シャンプーイング(セカンドシャンプー)・ブロー35分	橘・大塚
189～190	シャンプー・セット	シャンプーイング(セカンドシャンプー)・ブロー35分	橘・大塚
191～192	シャンプー・セット	シャンプーイング(セカンドシャンプー)・ブロー35分	橘・大塚
193～194	シャンプー・セット	シャンプーイング(セカンドシャンプー)・ブロー35分	橘・大塚
195～196	シャンプー・セット	シャンプーイング(セカンドシャンプー)・ブロー35分	橘・大塚
197～198	シャンプー・セット	シャンプーイング(セカンドシャンプー)・ブロー35分	橘・大塚
199～200	シャンプー・セット	シャンプーイング(セカンドシャンプー)・ブロー35分	橘・大塚
201～202	シャンプー・セット	シャンプーイング(セカンドシャンプー)・ブロー35分	橘・大塚
203～204	シャンプー・セット	シャンプーイング(セカンドシャンプー)・ブロー35分	橘・大塚
205～206	シャンプー・セット	シャンプーイング(セカンドシャンプー)・ブロー35分	橘・大塚
207～208	シャンプー・セット	シャンプーイング(セカンドシャンプー)・ブロー試験	橘・大塚

回	項目	内容	担当者名
209～210	着付技術	留袖着付け	大塚
211～212	着付技術	留袖着付け	大塚
213～214	着付技術	留袖着付け	大塚
215～216	着付技術	羽織・袴着付け	大塚
217～218	着付技術	羽織・袴着付け	大塚
219～220	着付技術	まとめ・技術試験	大塚
221～222	まつ毛エクステンション	基本装着レッスン(ウィッグ・相モデル)	橘
223～224	まつ毛エクステンション	基本装着レッスン(ウィッグ・相モデル)	橘
225～226	まつ毛エクステンション	基本装着レッスン(ウィッグ・相モデル)	橘
227～228	まつ毛エクステンション	基本装着レッスン(ウィッグ・相モデル)	橘
229～230	まつ毛エクステンション	基本装着レッスン(ウィッグ・相モデル)	橘
231～232	まつ毛エクステンション	基本装着レッスン(ウィッグ・相モデル)	橘
233～234	まつ毛エクステンション	基本装着レッスン(ウィッグ・相モデル)	橘
235～236	まつ毛エクステンション	基本装着・リムーブレッスン(ウィッグ・相モデル)	橘
237～238	まつ毛エクステンション	基本装着・リムーブレッスン(ウィッグ・相モデル)	橘
239～240	まつ毛エクステンション	まとめ・技術試験	橘

【到達目標】

国家試験課題であるワインディングとオールウェーブの技術力を高める。
サロンの現場にて対応できる技術力を的確に蓄積していく。
国家試験実技全員合格

【時間外学習(予習・復習・準備学習等)】

学んだ技術を予習・復習し練習する。

【課題に対するフィードバックの方法】

担当者が課題についてのアドバイスをを行う。次回の課題について指示を行う。

【成績評価の方法・基準】

方法

1. 定期試験
2. 授業の出欠状況
3. 授業受講の態度
4. 毎時間の技術評価

基準

1. 定期試験については評価判定基準に準ずる。
2. 授業の出欠状況については所定授業時数の4/5以上を出席とする。
3. 授業受講の態度については評価判定基準に基づき担当教員が評価を行う。
4. 毎時間の技術評価については評価判定基準に基づき担当教員が評価を行う。

評価判定基準

評価(点)	100～80	79～70	69～60	59以下
評定	A	B	C	D

*評定はC以上を合格とする。

【テキスト】

書名	著者名	出版社
美容実習1		日本理容美容教育センター
美容実習2		日本理容美容教育センター

【参考文献】

書名	著者名	出版社
特になし。		

【備考】

授業への出欠状況および授業中に授業に対する受講態度を重視する。

【＊実務経験のある教員等について】

担当者の氏名に＊の付いている教員は、美容所において美容師としての実務経験を有しており、当該授業における美容技術の実習を指導する。

実務経験	美容所における美容師経験
実務経験の活かし方	美容師経験をもとに美容所における技術や実践的接客指導を行っていく

【選択科目】

埼玉東萌美容専門学校

授業科目 美容サロンワーク*

開講年次	2年前後期	時間/単位	60時間/2単位	必選	選 択	授業形態	講義・実習
資格対応							
担当者	大場利良*、橘紗絵子*						

【授業の概要】

現在美容サロンで行われている美容師が情報発信するための様々な活動、技術を習得する。お互いに技術者、お客様となり美容サロンを想定し実践的技術を行っていく。

【教育目標】

美容に関する応用理論と知識を学びながらサロン技術を主眼に置きながら実践技術を導入し技術力を蓄積していく。美容に関する応用理論と知識を学びながらサロン技術を主眼に置きながら実践的な技術を導入し技術力を蓄積していく。

【授業方法】

授業方法の基本は実習である。技術の展示、技術ポイントをについて講義を行うこともある。常に自らの技術を把握をしながら実習に取り組み総合的な力に繋げる。実務経験のある教員が、美容現場における事例を含めながら助言等をしていく。サロンにてインターンシップを行う。

【アクティブ・ラーニングの要素】

グループワーク	プレゼンテーション	ディスカッション ディベート	実習
○	—	—	○

【授業計画】

回	項目	内容	担当者名
1～2	インターンシップ	オリエンテーション	橘・大場
3～4	インターンシップ	各美容所にて研修	橘
5～6	インターンシップ	各美容所にて研修	橘
7～8	インターンシップ	各美容所にて研修	橘
9～10	インターンシップ	各美容所にて研修	橘
11～12	インターンシップ	各美容所にて研修	橘
13～14	インターンシップ	各美容所にて研修	橘
15～16	インターンシップ	各美容所にて研修	橘
17～18	インターンシップ	各美容所にて研修	橘
19～20	インターンシップ	発表・総括	橘・大場
21～22	サロンワーク技術	シャンプー・ブロー技術	橘・大場
23～24	サロンワーク技術	シャンプー・ブロー技術	橘・大場
25～26	サロンワーク技術	シャンプー・ブロー技術	橘・大場
27～28	サロンワーク技術	シャンプー・ブロー技術	橘・大場
29～30	サロンワーク技術	シャンプー・ブロー技術	橘・大場

回	項目	内容	担当者名
31～32	サロンワーク技術	シャンプー・ブロー技術	橘・大場
33～34	サロンワーク技術	シャンプー・ブロー技術	橘・大場
35～36	サロンワーク技術	シャンプー・ブロー技術	橘・大場
37～38	サロンワーク技術	シャンプー・ブロー技術	橘・大場
39～40	サロンワーク技術	ハンドマッサージ技術・ネイル技術	橘・大場
41～42	サロンワーク技術	ハンドマッサージ技術・ネイル技術	橘・大場
43～44	サロンワーク技術	エクステンション技術	橘・大場
45～46	サロンワーク技術	エクステンション技術	橘・大場
47～48	サロンワーク技術	ヘアアレンジ技術	橘・大場
49～50	サロンワーク技術	ヘアアレンジ技術	橘・大場
51～52	サロンワーク技術	ヘアアレンジ技術	橘・大場
53～54	サロンワーク技術	美容サロンを想定しての接客・技術の実践	橘・大場
55～56	サロンワーク技術	美容サロンを想定しての接客・技術の実践	橘・大場
57～58	サロンワーク技術	美容サロンを想定しての接客・技術の実践	橘・大場
59～60	まとめ	美容サロンを想定しての接客・技術の実践・試験	橘・大場

【時間外学習(予習・復習・準備学習等)】

学んだ技術を予習・復習し練習する。実習内容をノートにまとめる。

【フィードバックの方法】

担当者が課題についてのアドバイスをを行う。次回の課題について指示を行う。

【成績評価の方法・基準】

方法

1. 定期試験
2. 授業の出欠状況
3. 授業受講の態度
4. 毎時間の技術評価

基準

1. 定期試験については評価判定基準に準ずる。
2. 授業の出欠状況については所定授業時数の4/5以上を出席とする。
3. 授業受講の態度については評価判定基準に基づき担当教員が評価を行う。
4. 毎時間の技術評価については評価判定基準に基づき担当教員が評価を行う。

評価判定基準

評価(点)	100～80	79～70	69～60	59以下
評価	A	B	C	D

*評価はC以上を合格とする。

【テキスト】

書名	著者名	出版社
特になし。		

【参考文献】

書名	著者名	出版社
特になし。		

【備考】

授業への出欠状況および授業中に授業に対する受講態度を重視する。

【＊実務経験のある教員等について】

担当者の氏名に＊の付いている教員は、美容所において美容師としての実務経験を有しており、当該授業における美容技術の実習を指導する。

実務経験	美容所における美容師経験
実務経験の活かし方	美容師経験をもとに美容所における技術や実践的接客指導を行っていく

【選択科目】

埼玉東萌美容専門学校

授業科目 美容ケア(メイク)*

開講年次	2年前期	時間/単位	30時間/1単位	必選	選 択	授業形態	講義・実習
資格対応	日本メイクアップ連盟 メイクアップ2級検定						
担当者	橘紗絵子*						

【授業の概要】

モードメイクアップ・ステージメイクアップ・ブライダルメイクアップ他、各自の感性と創造性を生かした作品研究をし、あらゆる場面や個性に対応出来る技術と共に人間性やマナーも習得する。

【教育目標】

基礎知識をベースにし、ヘアメイクアップアーティストに必要な必要な気配り、心構えを育み、ショーやステージ等の現場に即した実践的なメイクアップを学ぶ。応用編としてTPOに応じたより高度なメイクアップテクニックを研究練磨する。

【授業方法】

授業方法の基本は実習である。技術の展示、技術ポイントをについて講義を行うこともある。常に自らの技術を把握をしながら実習に取り組み総合的な力に繋げる。実務経験のある教員が、美容現場における事例を含めながら助言等をしていく。

【アクティブ・ラーニングの要素】

グループワーク	プレゼンテーション	ディスカッション ディベート	実習
—	—	—	○

【授業計画】

回	項目	内容	担当者名
1～2	レベルチェック	検定3級レベルでのフルメイクチェック スキンケア～フルメイクまで	橘
3～4	修正メイク	ファンデーションの多色塗り、ポイント メイクにおける修正メイク等	橘
5～6	雑誌模写メイク	10代、20代の雑誌を元にした模写メイク	橘
7～8	印象別メイク1	修正メイク等で学んだ技術から、 ソフトな印象のメイクアップを行う	橘
9～10	印象別メイク2	修正メイク等で学んだ技術から、 シャープな印象のメイクアップを行う	橘
11～12	雑誌模写メイク2	雑誌を元にした模写メイク	橘
13～14	シーン別メイクアップ	ウエディング和装・洋装メイクのメイクレッスン	橘
15～16	雑誌模写メイク3	雑誌を元にした模写メイク	橘
17～18	印象別メイク3	キュートもしくは、エレガントなメイクいずれかに仕上げる	橘
19～20	舞台メイク	キャッツのメイクを相モデルにて行う ガイコツ・かぶきメイクなど	橘
21～22	舞台メイク	宝塚メイク	橘
23～24	検定2・3級対策	検定におけるメイクアップの試験のポイントを中心にレッスン	橘
25～26	検定2・3級対策	検定におけるメイクアップの試験のポイントを中心にレッスン	橘
27～28	検定2・3級対策	検定におけるメイクアップの試験のポイントを中心にレッスン	橘

回	項目	内容	担当者名
29～30	まとめ・筆記試験	総まとめ 筆記試験・実技試験	橘

【到達目標】

メイクアップをくり返し学ぶことにより、顔に対する見方が明確になり、様々な個性に対応でき、幅広くTPOに応じたテクニック・創造性や感性を作品を通して学ぶ。

【時間外学習(予習・復習・準備学習等)】

学んだ技術を予習・復習し練習する。

【課題に対するフィードバックの方法】

担当者が課題についてのアドバイスをを行う。次回の課題について指示を行う。

【成績評価の方法・基準】

方法

1. 定期試験
2. 授業の出欠状況
3. 授業受講の態度
4. 毎時間の技術評価

基準

1. 定期試験については評価判定基準に準ずる。
2. 授業の出欠状況については所定授業時数の4/5以上を出席とする。
3. 授業受講の態度については評価判定基準に基づき担当教員が評価を行う。
4. 毎時間の技術評価については評価判定基準に基づき担当教員が評価を行う。

評価判定基準

評価(点)	100～80	79～70	69～60	59以下
評定	A	B	C	D

*評定はC以上を合格とする。

【テキスト】

書名	著者名	出版社
美容技術理論2		日本理容美容教育センター

【参考文献】

書名	著者名	出版社
特になし。		

【備考】

授業への出欠状況および授業中に授業に対する受講態度を重視する。

【*実務経験のある教員等について】

担当者の氏名に*の付いている教員は、美容所において美容師としての実務経験を有しており、当該授業におけるメイクアップ技術の実習を指導する。

実務経験	美容所における美容師経験
実務経験の活かし方	美容師経験をもとに実践的メイクアップ技術指導を行う。

【選択科目】

埼玉東萌美容専門学校

授業科目 創作美容*

開講年次	2年後期	時間/単位	30時間/1単位	必選	選 択	授業形態	講義・実習
資格対応							
担当者	大場利良*、橘紗絵子*						

【授業の概要】

ヘアスタイリストとしての基礎～応用技術を学ぶ。

【教育目標】

流行に敏感に対応ができるようになり、その流行と自らの創作を表現できる感性と技術を習得する。

【授業方法】

自らの技術を把握をしながら実習に取り組み総合的な力に繋げる。
実務経験のある教員が、美容現場における事例を含めながら助言等をしていく。

【アクティブ・ラーニングの要素】

グループワーク	プレゼンテーション	ディスカッション ディベート	実習
○	—	—	○

【授業計画】

回	項目	内容	担当者名
1～2	カットティングテクニック①	レイヤー グラデーション	橘
3～4	カットティングテクニック②	ストロークカット、エフェクトカット他	橘
5～6	カットティングテクニック③	クリッパーワーク	橘
7～8	カットティングテクニック④	応用技術	橘
9～10	カットティングテクニック⑤	技術試験	橘
11～12	特殊系ヘア技術①	コーンロー、ドレット他	橘
13～14	特殊系ヘア技術②	応用技術・技術試験	橘・大場
15～16	サロン・パーマテクニック①	応用技術	橘
17～18	サロン・パーマテクニック②	応用技術	橘
19～20	サロン・パーマテクニック③	応用技術	橘
21～22	サロン・パーマテクニック④	応用技術・技術試験	橘・大場
23～24	サロン・カラーテクニック①	ウィービング・他テクニック	橘
25～26	サロン・カラーテクニック②	ウィービング・他テクニック	橘
27～28	サロン・カラーテクニック③	ウィービング・他テクニック	橘
29～30	サロン・カラーテクニック④	応用技術・技術試験	橘・大場

【到達目標】

美容技術の総合力と美容造形の創作の習得。

【時間外学習(予習・復習・準備学習等)】

学んだ技術を予習・復習し練習する。実習内容をノートにまとめる。

【フィードバックの方法】

担当者が課題についてのアドバイスをを行う。次回の課題について指示を行う。

【成績評価の方法・基準】**方法**

1. 定期試験
2. 授業の出欠状況
3. 授業受講の態度
4. 毎時間の技術評価

基準

1. 定期試験については評価判定基準に準ずる。
2. 授業の出欠状況については所定授業時数の4/5以上を出席とする。
3. 授業受講の態度については評価判定基準に基づき担当教員が評価を行う。
4. 毎時間の技術評価については評価判定基準に基づき担当教員が評価を行う。

評価判定基準

評価(点)	100～80	79～70	69～60	59以下
評価	A	B	C	D

*評価はC以上を合格とする。

【テキスト】

書名	著者名	出版社
特になし。		

【参考文献】

書名	著者名	出版社
特になし。		

【備考】

授業への出欠状況および授業中に授業に対する受講態度を重視する。

【*実務経験のある教員等について】

担当者の氏名に*の付いている教員は、美容所において美容師としての実務経験を有しており、当該授業における美容技術の実習を指導する。

実務経験	美容所における美容師経験
実務経験の活かし方	美容師経験をもとに美容所における技術や実践的接客指導を行っていく

【選択科目】

埼玉東萌美容専門学校

授業科目 美容モード理論*

開講年次	2.年前後期	時間/単位	60時間/2単位	必選	選 択	授業形態	講義・実習
資格対応							
担当者	大場利良*、橘紗絵子*						

【授業の概要】

鉛筆によるデッサンの描き方を学ぶ。色彩の基礎的な知識を、絵具の混色などの実践を交えながら学ぶ。ヘアスタイル、デザインの流行を学び表現するうえで大切なベーシック技術を繰り返し行う。繰り返し行うことで、姿勢や体の使い方を体得していく。

【教育目標】

技術的なデッサン力(描写力)を培うことで、物を深く視る力を養う。また、自由な発想力や想像力を鍛え、自分のイメージを人に伝える表現力を身に付ける。色彩論(色の仕組み)を学び、色を効果的に使うための基礎的な色彩知識を身に付ける。国家試験実技合格ができる技術を習得する。

【授業方法】

授業方法の基本は実習である。技術の展示、技術ポイントをjについて講義を行うこともある。常に自らの技術を把握をしながら実習に取り組み総合的な力に繋げる。美容所にて実務経験のある教員が、美容現場における事例を含めながら助言等をしていく。

【アクティブ・ラーニングの要素】

グループワーク	プレゼンテーション	ディスカッション ディベート	実習
—	—	—	○

【授業計画】

回	項目	内容	担当者名
1～2	ヘアデザイン	錯覚現象・デザインの要素	橘
3～4	ヘアデザイン	デザインの要素・デザインの原理	橘
5～6	ヘアデザイン	デッサン基礎、写真模写の仕方、写真模写(提出)	橘
7～8	ヘアデザイン	デッサン基礎、写真模写の仕方、写真模写(提出)	橘
9～10	ヘアデザイン	デッサン基礎、写真模写の仕方、写真模写(提出)	橘
11～12	ヘアデザイン	デッサン基礎、写真模写の仕方、写真模写(提出)	橘
13～14	ヘアデザイン	アイディアスケッチ	橘
15～16	ヘアデザイン	アイディアスケッチ	橘
17～18	ヘアデザイン	アイディアスケッチ	橘
19～20	色彩論	色相環・補色チャートの作成	橘
21～22	色彩論	色相環・補色チャートの作成	橘
23～24	色彩論	色相環・補色チャートの作成	橘
25～26	色彩論	色彩構成	橘
27～28	色彩論	色彩構成	橘

回	項目	内容	担当者名
29～30	まとめ・試験	アイディアスケッチ、講評会	橘・大場
31～32	ヘアカッティング	創作カット	橘
33～34	ヘアカッティング	創作カット	橘
35～36	ヘアカッティング	創作カット	橘
37～38	ヘアカッティング	創作カット	橘
39～40	ヘアカッティング	創作カット	橘
41～42	まとめ・試験	創作カット(60分)	橘・大場
43～44	パーマネントウェーブ技術	創作パーマネントデザイン	大場
45～46	パーマネントウェーブ技術	創作パーマネントデザイン	大場
47～48	パーマネントウェーブ技術	創作パーマネントデザイン	大場
49～50	パーマネントウェーブ技術	創作パーマネントデザイン	大場
51～52	パーマネントウェーブ技術	創作パーマネントデザイン	大場
53～54	パーマネントウェーブ技術	創作パーマネントデザイン	大場
55～56	パーマネントウェーブ技術	創作パーマネントデザイン	大場
57～58	パーマネントウェーブ技術	創作パーマネントデザイン	大場
59～60	まとめ・試験	創作パーマネントデザイン	橘・大場

【到達目標】

流行で変化するモードを表現するための基礎技術を習得する。デッサン力、発想力、表現力の向上。色彩の基礎知識の理解。

【時間外学習(予習・復習・準備学習等)】

学んだ技術を予習・復習し練習する。

【課題に対するフィードバックの方法】

担当者が課題についてのアドバイスを行う。次回の課題について指示を行う。

【成績評価の方法・基準】

方法

1. 定期試験
2. 授業の出欠状況
3. 授業受講の態度
4. 毎時間の技術評価

基準

1. 定期試験については評価判定基準に準ずる。
2. 授業の出欠状況については所定授業時数の4/5以上を出席とする。
3. 授業受講の態度については評価判定基準に基づき担当教員が評価を行う。
4. 毎時間の技術評価については評価判定基準に基づき担当教員が評価を行う。

評価判定基準

評価(点)	100～80	79～70	69～60	59以下
評定	A	B	C	D

*評定はC以上を合格とする。

【テキスト】

書名	著者名	出版社
美容実習1		日本理容美容教育センター
美容実習2		日本理容美容教育センター

【参考文献】

書名	著者名	出版社
必要に応じて資料を配付する。		

【備考】

授業への出欠状況および授業中に授業に対する受講態度を重視する。

【＊実務経験のある教員等について】

担当者の氏名に＊の付いている教員は、美容所において美容師としての実務経験を有しており、当該授業における美容技術の実習を指導する。

実務経験	美容所における美容師経験
実務経験の活かし方	美容師経験をもとに美容所における技術や実践的接客指導を行っていく

【選択科目】

埼玉東萌美容専門学校

授業科目 美容総合技術*

開講年次	2年前後期	時間/単位	90時間/3単位	必選	選 択	授業形態	講義・実習
資格対応	美容師国家試験受験資格						
担当者	大場利良*、橘紗絵子*、吉越葉真子*、澤田綾美						

【授業の概要】

髪の毛や肌は体の中の状態と深く関連していることを学ぶ。体の質を知りそれに合わせたケアの方法を理解することにより、体を改善しベストな健康状態を生み出す方法を学ぶ。免疫力や機能を高め健康な体を作る基本は食事であることを理解し、食材の効能や選び方を学ぶ。心身のバランスを整え、心身両面からケアするヨガを学ぶ。ニーズの高いサロンメニューの技術を理解し、ヘアトリートメント、ヘッドスパ、まつ毛エクステンションの知識・技術を学ぶ。国家試験筆記対策についても行う。

【教育目標】

美容全般の基本技術や知識を習得した上で、さらに体の外面は体の内面と深く結びついていることを理解し、体の内面にも注目し「美と健康(インナービューティー)」に関する総合的な美容技術を学ぶ。外面だけで内面からの美を追求する姿勢を身に付け、心身ともに健康的な美容師になることを目指す。さらに、ニーズの高いサロンメニューに対応する知識と技術を習得し実践力を身に付ける。

【授業方法】

授業方法の基本は実習である。技術の展示、技術ポイントをについて講義を行うこともある。常に自らの技術を把握をしながら実習に取り組み総合的な力に繋げる。美容所にて実務経験のある教員が、美容現場における事例を含めながら助言等をしていく。
国家試験筆記対策については過去問題の実践・解説を繰り返し行っていく。

【アクティブ・ラーニングの要素】

グループワーク	プレゼンテーション	ディスカッション ディベート	実習
○	—	—	○

【授業計画】

回	項目	内容	担当者名
1～2	身体の内面の美容学(1)	ヨガ	吉越
3～4	身体の内面の美容学(2)	ヨガ	吉越
5～6	身体の内面の美容学(3)	ヨガ	吉越
7～8	身体の内面の美容学(4)	食事学・食材の効能 体の質に合った食材選び	澤田
9～10	身体の内面の美容学(5)	調理実習	澤田
11～12	身体の内面の美容学(6)	調理実習・評価	澤田
13～14	身体の内面の美容学(7)	体の質を知る 体の質に合わせたケアの方法	澤田
15～16	身体の内面の美容学(8)	ヨガ	吉越
17～18	身体の内面の美容学(9)	ヨガ	吉越
19～20	身体の内面の美容学(10)	ヨガ	吉越
21～22	身体の内面の美容学(11)	食事学・食材の効能 体の質に合った食材選び	澤田
23～24	身体の内面の美容学(12)	調理実習	澤田

回	項目	内容	担当者名
25～26	身体の内面の美容学(13)	調理実習・評価	澤田
27～28	身体の内面の美容学(14)	ヨガ まとめ評価	吉越
29～30	スキャルプケアヘアケア	ヘッドスパ技術	橘・大場
31～32	スキャルプケアヘアケア	ヘッドスパ技術	橘・大場
33～34	スキャルプケアヘアケア	ヘッドスパ技術	橘・大場
35～36	スキャルプケアヘアケア	ヘッドスパ技術	橘・大場
37～38	スキャルプケアヘアケア	ヘッドスパ技術	橘・大場
39～40	スキャルプケアヘアケア	ヘアトリートメント技術	橘・大場
41～42	スキャルプケアヘアケア	ヘアトリートメント技術	橘・大場
43～44	スキャルプケアヘアケア	ヘアトリートメント技術	橘・大場
45～46	スキャルプケアヘアケア	スキャルプケアヘアケア まとめ・技術試験	橘・大場
47～48	まつ毛エクステンション	まつ毛概論・商材学	橘
49～50	まつ毛エクステンション	テープ貼り・ツイザーワーク基礎(ウィッグ・相モデル)	橘
51～52	まつ毛エクステンション	基本装着レッスン(ウィッグ・相モデル)	橘
53～54	まつ毛エクステンション	基本装着レッスン(ウィッグ・相モデル)	橘
55～56	まつ毛エクステンション	基本装着・リムーブレッスン(ウィッグ・相モデル)	橘
57～58	まつ毛エクステンション	基本装着・リムーブレッスン(ウィッグ・相モデル)	橘
59～60	まつ毛エクステンション	基本装着・リムーブレッスン(ウィッグ・相モデル)	橘
61～62	国家試験受験対策	美容師国家試験筆記過去問題の実践・解説	大場
63～64	国家試験受験対策	美容師国家試験筆記過去問題の実践・解説	大場
65～66	国家試験受験対策	美容師国家試験筆記過去問題の実践・解説	大場
67～68	国家試験受験対策	美容師国家試験筆記過去問題の実践・解説	大場
69～70	国家試験受験対策	美容師国家試験筆記過去問題の実践・解説	大場
71～72	国家試験受験対策	美容師国家試験筆記過去問題の実践・解説	大場
73～74	国家試験受験対策	美容師国家試験筆記過去問題の実践・解説	大場
75～76	国家試験受験対策	美容師国家試験筆記過去問題の実践・解説	大場
77～78	国家試験受験対策	美容師国家試験筆記過去問題の実践・解説	大場
79～80	国家試験受験対策	美容師国家試験筆記過去問題の実践・解説	大場
81～82	国家試験受験対策	美容師国家試験筆記過去問題の実践・解説	大場
83～84	国家試験受験対策	美容師国家試験筆記過去問題の実践・解説	大場

回	項目	内容	担当者名
85～86	国家試験受験対策	美容師国家試験筆記過去問題の実践・解説	大場
87～88	国家試験受験対策	美容師国家試験筆記過去問題の実践・解説	大場
89～90	国家試験受験対策	美容師国家試験筆記過去問題の実践・解説	大場
91～92	国家試験受験対策	美容師国家試験筆記過去問題の実践・解説	橘
93～94	国家試験受験対策	美容師国家試験筆記過去問題の実践・解説	橘
95～96	国家試験受験対策	美容師国家試験筆記過去問題の実践・解説	橘
97～98	国家試験受験対策	美容師国家試験筆記過去問題の実践・解説	橘
99～100	国家試験受験対策	美容師国家試験筆記過去問題の実践・解説	橘
101～102	国家試験受験対策	美容師国家試験筆記過去問題の実践・解説	橘
103～104	国家試験受験対策	美容師国家試験筆記過去問題の実践・解説	橘
105～106	国家試験受験対策	美容師国家試験筆記過去問題の実践・解説	橘
107～108	国家試験受験対策	美容師国家試験筆記過去問題の実践・解説	橘
109～110	国家試験受験対策	美容師国家試験筆記過去問題の実践・解説	橘
111～112	国家試験受験対策	美容師国家試験筆記過去問題の実践・解説	橘
113～114	国家試験受験対策	美容師国家試験筆記過去問題の実践・解説	橘
115～116	国家試験受験対策	美容師国家試験筆記過去問題の実践・解説	橘
117～118	国家試験受験対策	美容師国家試験筆記過去問題の実践・解説	橘
119～120	国家試験受験対策	美容師国家試験筆記過去問題の実践・解説	橘

【到達目標】

外面だけでなく内面からの美を追求する姿勢を身に付け、心身ともに健康的な美容師を目指す。
美容師国家試験筆記に合格。

【時間外学習(予習・復習・準備学習等)】

学んだ技術を予習・復習し練習する。

【課題に対するフィードバックの方法】

担当者が課題についてのアドバイスを行う。次回の課題について指示を行う。

【成績評価の方法・基準】

方法

1. 定期試験
2. 授業の出欠状況
3. 授業受講の態度
4. 毎時間の技術評価

基準

1. 定期試験については評価判定基準に準ずる。
2. 授業の出欠状況については所定授業時数の4/5以上を出席とする。
3. 授業受講の態度については評価判定基準に基づき担当教員が評価を行う。
4. 毎時間の技術評価については評価判定基準に基づき担当教員が評価を行う。

評価判定基準

評価(点)	100～80	79～70	69～60	59以下
評定	A	B	C	D

*評定はC以上を合格とする。

【テキスト】

書名	著者名	出版社
特になし		

【参考文献】

書名	著者名	出版社
必要に応じて資料を配付する。		

【備考】

授業への出欠状況および授業中に授業に対する受講態度を重視する。

【*実務経験のある教員等について】